新女界

主筆　安井哲子

○弱者保護の美德（一）……安井哲子
△入社の御挨拶（四）……小橋三四子
○漫遊みやげ（一二）……理學博士　坪井正五郎
△わが受洗に就て（三二）……志立たき子
○婦人の職業
△社會生活の變化と女子の職業（一七）……法學博士　浮田和民
△女子の職業に就ての卑見（二二）……廣岡淺子
△社會への御相談（二七）……小橋三四子
○婦人は太陽の如かれ（三四）……井深花子
△春（五二）……紫嵐
△榛名みち（五八）……野口精子
△五月雨（五九）……野人
△壞れた器（六〇）……野菊
○自然と子供（四〇）……海老名みや子
△土のない土地で子供のした園藝（四七）……記者
○わが母（四九）……矢島揖子
○隨感（六二）
△女子教育を堀抜き井戸の深さに（矢島揖子）△之れも亦一德、場合を見るのも大事の注意（安井哲子）△緣の下の力持（元良よれ子）△教會は病院（宮川經輝）△母たらんとする心（閑子）△世の大なる矛盾（幽香子）△迷ひし歳月を惜しむ（三四子）眞に醒めたりや　聖）
○時事其折々（六八）……楠男
△編輯だより（七二）……記者
○柔者の勝利（五）……海老名彈正

第四巻第五號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

千代田香油

（嬉しいこと）
美ちゃんの赤い毛も、花ちゃんの縮れ毛も、芳ちゃんの脱毛も頭垢も、皆美しくなりました、之れ全く千代田香油の賜と喜んで居ります

英國製スワン石鹸日本一手發賣元

本舗 東京馬喰町四丁目 振替東京二〇五〇〇 **山岸三之助** 電話浪花三七九三

大阪支店‥‥大阪南區堺筋鹽町二丁目七番地

定價
金七十錢
金三十五錢
金二十五錢
金十七錢

英國製 **スワン浮石鹸**

家庭用

○入浴用にも化粧用にも安心して使へる最も純良な石鹸
○何處の御家庭でも盛んに愛用される最も重寶な浮石鹸

千代田香油本舗 山岸三之助

僞物あり スワン鳥に御注意を希ふ

羽仁もと子著

理想の生活 靜子の巻

初版即日賣り切れ

再版出來

定價六拾錢

郵税六錢

目次

一 母の教訓
二 新世帯
三 知らぬ間の働き
四 忍耐の日
五 信仰問題
六 茅屋の主婦
七 月下の清話
八 さまぐの望み
九 希望の曙光
十 碎けたる心
十一 惠まれたる家
十二 最も大なる賜

靜子と呼ぶ、若き主婦を中心として、その賢く正しく一家を經營する有樣を描き、また舊弊頑固なる姑に事へて、よく忍びよく勉め、愛を以て遂にその頑なる心を和ぐるに至る道ゆきを記したるものにて、多くの暗示と、深き教訓と、限りなき慰藉に充ち溢れたる物語。

東京小石川雜司ケ谷町
振替東京一一六〇〇番
婦人之友社
電話番町三六九八

拾二卷 新人 合本

殘本僅十數部　定價金一圓參拾錢（送料共）

社 （海老名主筆）

▲教育勅語と基督教▲現代基督教の二大根據▲國民道德の進化▲國民道德の究境▲朝鮮傳道▲國民道德の根本を發揮せよ▲神社崇敬の疑問▲朝鮮に於ける感想▲朝鮮人の使命▲祖先崇拜か子孫崇拜か▲我國民性の變遷と基督教▲支那の內亂と帝國民の覺醒

教壇 （海老名彈正）

▲超人の使命▲信仰と忠君▲弱者の宗教▲强者の宗教▲現代に對する基督教の使命▲橄欖山上のキリスト▲基督の自覺▲新道德の基礎▲基督の流離▲基督の僕と友▲希望の生活▲自信▲靈能の實證

想苑

▲精神生活の內活　高木壬太郎
▲現代思潮と教育家　加藤直士
▲基督教界の缺陷　中村長之助
▲一元か多元か　富永德磨
▲近時の基督教觀　津荷環山
▲教會大合同論　內ヶ崎作三郎
▲基督株殺論を駁す　額賀鹿之助
▲滯德日記　吉野作造

▲基督教神秘主義の興起　富永德磨
▲基督教會成立の顚末　中村長之助
▲基督教の賜物　安部磯雄
▲基督教と沒我思想　芦田慶治
▲基督教は個人主義か沒我主義か　富永德磨
▲時代先覺の識見　海老澤亮
▲東洋思想と基督教の交涉　赤司繁太郎
▲社會事業の新紀元　鈴木文治
▲東洋意識と基督教　中村長之助
▲基督者の見たる起信論　津荷環山
▲イエスの人格　額賀鹿之助
▲自然主義か理想主義か　鹿子木員信譯
▲天才論　富永德磨
▲基督教の眞髓と宗教哲學　久布白直勝
▲教派合同の史的發達　小平國雄
▲イスカリオテのユダ　森脇白夜
▲予が基督に對する關係の歷史　安部清藏
▲予は佛陀より基督に往けり　小山鼎浦
▲祖先崇拜と基督教　赤星仙太
▲國家主義と個人主義　帆足皆夢
▲實生活に働く信仰の力　內ヶ崎作三郎
▲海野氏の日本人種改造論を讀む　谷津博士
▲聖書講義▲雜俎▲時潮小觀▲文藝小觀
▲時評▲其他

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

永廣堂

香料

本店 大阪市南區安堂寺橋通一丁目
電話番號南一九七八

支店 東京市日本橋區馬喰町二丁目
電話番號浪花四〇〇

京染悉皆商
松井宗七
京都市新町三條上ル
并ニ白生地販賣仕候

王

京都染元

染見本發行

黒紋附
模様染
新小紋
色染
更紗染

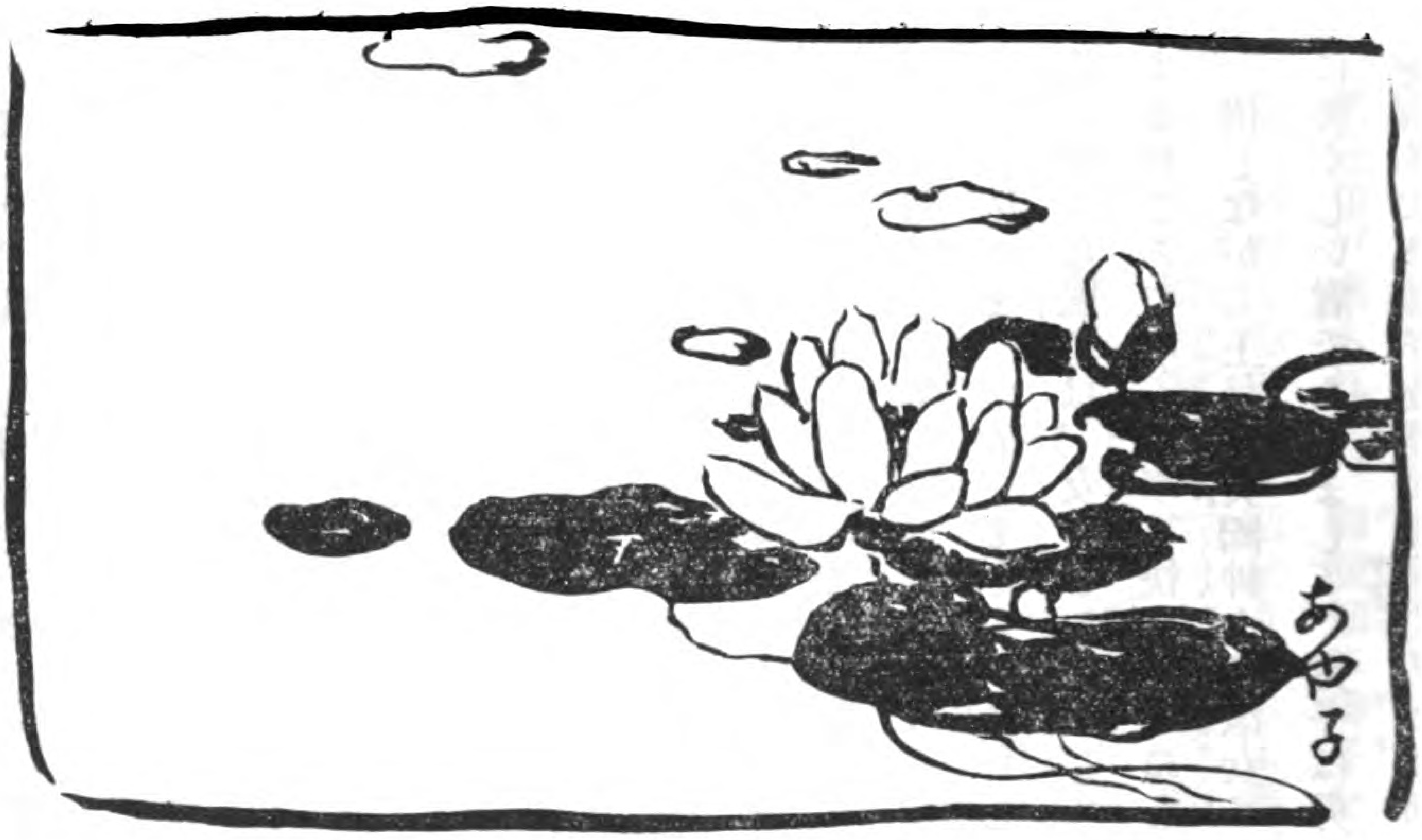
取引簡易

王德商店
京都市醒ケ井佛光寺

『かれこれと迷ふこと勿れ
完全無缺なる大學目藥あり

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に
基きし貴重の製劑にして●はやり目●
トラホーム●星目●のぼせ目●かすみ
目●血目●疲目其他眼病一切に驚くべき
奇効あり●全國各地有名の藥店にあり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



明治四十五年五月一日發行　第四卷第五號

弱者保護の美徳

安井哲子

先月十八日の新聞には、世界最大の汽船と稱せらる〻英國「ホワイト、スター」會社の「タイタニック」號が大氷山と衝突して非常に多數の溺死者を出だした悲慘な記事が載せてありました。其不幸な溺死者中には、知名の士も少くないのでありまして、吾々は遺族の方々に對し、又同國民のために無限の同情を表する者でありますが、殊に此記事を讀んで吾々婦人の最感激する事は、遭難の際に男客が自身の危險を忘れて、救命艇を婦人客に讓つたといふ事であります。英國首相アスキス氏が下院に此慘狀を報告せられたといふ電報中にも「余は今や非常の災害に對して、各自が克く犧牲心を發揮して弱者の安全を計らんがために全力を盡したるの美德を衷心より稱贊せずんば非らず」といはれて居ります。私は此記

事を讀んで、實に英國紳士の優しい心情を思ひ起さずには居られません。

歐米に漫遊せられた方々は吾國にも實に數多くありますが、吾東洋とは其風俗や習慣が自然に異つて居りますために、異様の感に打たるゝ方々も少くはありませんが、殊に男女間の作法に對しては著しく注意せらるゝ様であります。東洋は日本を初め支那でもシャムでも一般に禮儀が正しく、殊に女子は男子に對して其性質上謙遜であり、又從順であるべき者と教へられ、又吾々自身もかくある事を最自然と感じて居りますから、女子であるが故に男子の尊敬を得やうなどとは考へませんのみならず、自分自身の經驗に依りましても、妻が夫に命令し、娘が父親を使ふやうな風習は、女子として決して美くしいと感ずるどころでなく、寧不快に堪へぬ心地が致します。併しながら上品な英國紳士と淑女との交際振は實に美くしい者でありまして、男子は男子たるの威嚴を保ちつゝ婦人を勞はる優しみがあり、女子は又

男子に保護を受けつゝ自然に謙遜である奥ゆかしさがあります。之れは必しも英國ばかりではありますまい。他の文明國に於ても品格の高い男女の間には必ず之れと同様の有様を見る事が出來ませう。

吾國でも武士の美德は矢張情のある事で、曾て日清戰爭の當時、吾一士官は戰爭で親を見失つた敵國の一幼兒を左に抱き、右に劍を拔いて敵と戰つたといふ美談を聞きましたが、勇士の胸中には弱者に對する同情を宿して居るといふ事は、實に人情の極美であります。然るに吾國では、昔より男女の間に嚴重な隔りがありましたから、男女は互に打解けて物言ふ事さへ何となく正しからぬ事であるやうに思はれて、假令同情すべき場合でも、親切に助くべき場合でも故さらに知らぬ顔に打過ぎる風があります。

私は曾てある興味ある講演會に出席致しましたが其席に居合はされた男子の方々には、勝手知らずに困つて居る私に席を與へて下さいませんでした。他に婦人の來合はせて居られぬ席上に、かゝる有樣で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は實に其場に居にくい思ひが致します。やうやく一人の老先生が來られて、御親切に椅子を下さいましたので、初めて心安くお話をうかゞふ事が出來ました。之れを英國の實驗に比べますと、實に大なる違ひで、女子であれば殊に能く注意して親切に取扱つて下さいますから、多くの有益な會合に出席して智識を廣める事が出來ますが、吾國のやうでは再かゝる場處には來まいと引込思案に陷るのであります。併之れは必しも男子が冷淡であるといふのでなく、女子に對して親切の心を自由に現はす事の出來ぬ交際上の作法に依るのであります。

然るに下等の人々になりますと、他人より先自己といふ利己心に驅られて、汽車の中、電車の中、其他公衆の集合する場處などで先を爭ひますので、力弱くて之れに抵抗し得ぬ吾々女子や子供達は、何時でも後に殘されるか、又は蹈み倒されるかで、群集中で怪我をする者は、女子や子供や老人に最多いのであります。五六年前私は同情の深い或老先生と偶然汽車中でお目にかゝりましたが、丁度其時或御夫婦の方が乘り込まれましたので、先生は御親切にも直ちに立つて其弱々しげな婦人に席を讓られました然るに豈圖らん、强さうに見える其夫は一言の感謝も述べずに自身其席に着きましたので、吾々一同は實に驚いた事がありました。併此男子は自身の行に就いて何等怪しむ所もなく、其妻も亦恐くは之れに對して何等の不思議も感じませんでしたらう。かゝる習慣には直に染んで終には何事も最普通であるやうに感ぜらるゝのであります。

併しながら暫く吾々を傍觀者の地位に置いて、無力な子供が成人の壓制を受けて悲しんで居る有樣、又は言語を有たぬ動物が、子供の虐待に逢つて苦しんで居る有樣を觀察致しませう。かゝる訴ふるに言葉なく、抵抗するに力なき無力可憐の者に對して、吾々自分、自身の冷遇以上に苦痛を感ずるのであります。實にかゝる種類の者を苦しめるのは、抵抗力を有つて居る者を苦しめるよりも一層深い罪であり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ます。弱い者の心は弱い者でなければ充分に識る事は出來ませんので、吾々は自身より無力である者に對しては、常に數倍の同情を彼等に注がねばなりません。

私は吾々女子が從來の如く從順と謙遜との德を發揮せんと力むると同時に、男子の方々が、一般の女子や子供に對して保護者たるの態度を取られ、勇ましい中に情を包んだ者が眞の男子であるといふ事を明に自覺されたいと切望するのであります。アスキス首相が「タイタニック」號男客の犧牲的美德を稱贊せられた辭は、實に英國紳士の衷心より出た者であつて、自身が弱者に對して深い同情があるのでなければ、他人の美點に注意し得ぬ者であります。多くの名士は不幸にして、悲慘なる最後を遂げられましたけれども、危急の際能く婦人や子供の保護を忘れなかつた美德を其妻子が聞かれたならば、吾身に思ひ比べて、悲しみの中に一種の慰藉を得る事が出來ませうし、且又世界各國の婦人子供は、其救助を

受けた、婦人や子供と共に、是等不幸なる勇士の靈に滿腔の感謝を捧げるでありませう。

御挨拶

小橋三四子

前號に御紹介下すつた樣に、此度私が本誌の編輯をお引き請けする事となりました。私は微力で、到底皆樣の期待を滿たす事は覺束ない次第であり、且つ女子青年會にも關係致して居るので、時間も充分に取れぬ處より、如何致さうかと躊躇致しました然しこの恐れを忘れて、なほ餘りある喜びは、本誌を經營せらるゝ敬愛する諸先輩の末席になりと加はり、この問題多き今日、本誌を通して心から婦人方の眞實の味方となり、友となつて行かれる一事でありました。もしそれわが未熟なる筆、乏しき經驗の本誌の使命とする處を充分果されぬ恨みありとも、常に赤心を以て努力しつゝある事をお覺え下さいまし。幸に讀者諸氏にも益々本誌を愛し、その發展を助けられん事を希ふもので御座います。

教壇

柔者の勝利

海老名彈正

天地の間には剛者と弱者との二つありて、あらゆる事をなしつゝあり、剛者は必ず強くして、弱者は必ず弱いとは限られて居らず、剛者は權力を恣し、弱者は之れに屈服しなければならない運命を持てりとも限らない。剛者と弱者とは互に相須つて、凡ての事をなすやうになつて居る。故に宗教家の眼に影ずるものは、剛者が必ず勝つて、弱者必ずしも敗けたりとも見えず、弱者必ずしも勝つて、剛者必ずしも敗けたりとも見えず、只人々が見て弱者と思はるゝものが強ち敗けるものではなく、人々が剛者と見て居るものが、強ち勝つべきものでもない。この見方によりてその樣子異る。キリストの言葉に「柔和なるものは祥なり、その人は地を嗣ぐ事を得べければなり」と。柔和なるものとは弱者の性格である。一見神を信じ、道を蹈む者の如きは弱者の如きものがある。例へば「惡に敵する勿れ、人汝の右の頰を打たば、左の頰をも之れに向けよ」と云ふが如きは剛者の態度にあらずして、柔者の態度としか考へられず、又宗教を信じ、神の御心を旨とし殊にクリスト教と奉ずる者は、忍耐を旨とし、人に逆らはず、人を憐む等、柔者の性格を示すものである。キリストの性格を云ふに世の罪を負ふ小羊を見よと、小羊の如く牽かれて、柔和で、不平を鳴らし給はず、終始柔かなるものを以て、基督の性格を云ひ顯はして居る。之れは果して弱く柔かきものか。よく考へて見れば、剛者と云ふは重に腕力の強きものを云ひた

がり、柔者とは腕力の弱きものを云ひたがる。そこは大に注意して考ふべき處である。例へば動物の中でも、羊と狼とを比較するのに、羊は柔和で、狼は剛者であり、虎、獅子の如きは更らに剛者である。然しこの世の中は剛者なる虎狼の世界になりて、柔なる羊の生活がなくなるかと云ふに、さうではなく、之れにはまた不思議な能を持つて居る。全地球の上から見れば、却つて虎狼は減じ、羊が増殖して居る。之れは何が故であらうか、外ではない。その羊は人の用をなすので、人の方から見れば、羊は人間の爲めに必要であるから、人間の繁殖と共に、羊も繁殖して、虎狼よりも勝利を得て居るのである。扨人と云ふものは非常に強く、虎狼よりも剛の者かと云ふに、強ちさうではない。足に爪あるなく、嘴あるなく、牙あるなし、その剛者ならぬ人間が、動物に勝つ所以は何であるか、只人間のみが持てる理性あるによるのである。理性を持てる者は、剛者の如く殺伐ではないが、大なる勝利はその者の手に歸するのである。之れによつて推して見るに、この宇宙は誰れの支配する處か、司る處か、宗教家の眼には明らかに分る。それは神である。故に人間世界に於てどういふものが勝利を得て、どういふものが敗北するかといふに、天に從ふもの卽ち神に從ふものは存し、然らざるものは滅ぶるのである。神とはどういふお方であるかといふならば、人間の上より見る時は、神は理性の源である。神程道理あるものはない。その道理ある神の最も深き性格を云ひ顯はしたものは「神は愛なり」と云ふ言葉である。その言葉の何處に剛者の俤が見ゆるか、愛の神と云へば極めて柔和に見える。愛は一面柔の柔なるもの、その柔なる性格が神の本體である。その神が宇宙を支配して居る事は、新らしき宇宙の見解であり、また驚くべき眞理である。その愛なる神に從ふ事が、眞に柔和なる者である。その神の愛といふ心は、我々が聖書によりて窺ふ事が出來る。而して神の性格として人間に顯はれたるものゝ最後である。太古に溯

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れば、神の性は剛壯に表はれて居る、神の眞情があらはれるに從ひ、次第に柔性を表はして居る。その最後の斷案を下したものが、神は愛なりといふ柔なるものである。そのやうに我々も同樣に、凡ての事を實驗するに、人間が人間として何處に一番尊きものが宿つて居るであらうか。一家の中では父は嚴格なるものとせられて居る。所が家を治める主人公の一番押し詰めた處を叩くと、最も柔かなるものに接する事が出來る。剛と見ゆるは

クリスマス、プレゼント

表面である。子供が家の親に對して最もよく知るはその剛なる處に非ず、眞に柔かなる處である。世間の人は只彼れの剛なる處を知りて、柔なる所を知らず、子たる者は彼れの剛なる所を知らざるにあらざれども、またその柔をも知らざるにあらず、一國の上より云ふも君主の事を思ふと、權威赫々たるその剛の方面を認むるが、然し一國の君主として最も大事の處で且つ臣民がこれに親炙して有難がる處は柔かなる處である。精神狀態の極

めて柔かなる處に尊い處がある。それがまた君主たる者の本領である。何物も剛と見ゆるは外側にて、内に入れば入る程柔かなるものが出づる。その柔かなるものは所謂「神は愛なり」と云ふ處が出るのである。こゝはこの宇宙を支配し給ふ所のもの、即ち有形のものには見る事は出來ぬけれども、宇宙の形の上のみならず、細かい生命の働ける、更らに細かい宇宙の精神の働ける所に入ると、却つて剛なるものが支配せず、微妙に柔しき愛が支配して居る。偶々人間の中に最も勢力ある英雄豪傑出で、驚天動地のめざましき仕事を爲すを見れば、甚だ壯快なれども、こは剛にして一時的である。之れに反して萬世迄も人心を支配する聖人は、強ち學識優れるものにあらず、腕力の敵し難きものあるにあらず、只その精神の極めて柔かなるものがあるからである。釋尊の慈悲ある柔かなる精神が千載の後に尊ばるゝは、只釋尊が意志の人にして、難行苦行の鬪ひ斗りして居られしならば、決してかく萬世の人に親しまれるものではない。其處に於ては成効者ではない、却つて失敗者であつた。釋迦は斷食に絶えずして、死ぬる斗りになり、纖弱き少女に助けられ、山羊の乳を惠まれ、體力を快復すると共に、大に發見する所あり、自分をして偉きものとせず、深き同情を以て斗るべからざる慈悲の柔かな處を以て、人間世界の救主となつた。我々の主イエス、キリストは今日迄幾多の人の救主となり、人世に殆ど奇蹟ともいふべき程の事を爲し給ふた。クリストの一面は確かに強く嚴しく英雄の性を備へ給ふけれども、その萬世を動かし、勞かれし人に慰安を與へ、自ら勝利者の冠を蒙れるは、その強き處にあらず、その柔かなる處である。十字架につけられんとする時、ゲツセマネに於て腸を絞つてこの苦き盃を我れより取り去り給へ」と祈りをせられた。弟子の記す所によれば、實に彼れは血の汗を流し給ふたとある。此處が柔かなる處である。先に「我に從はんと思ふ者は父母をも捨て、生命をも捨てゝ省てはならぬ」と、先進疾驅

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し給ひし光景とは餘程異る所がある。然し萬世の人に慰安を與へ、之れを親しましむる力あるものは、却つてゲツセマネの苦しき祈りに於てゞある。彼れがピラトの法廷に引き出されたる强さは何とも云へず態度の男らしい斗りでなく、不動の境界に入られ原告に無言で答へ、之れを目殺し給ふたと云ふても差支へなく、實に剛膽、不敵の方面を表はし給ふた然し彼れがゴルゴダに行かれる途中、女達來りて泣くを見て「汝等我れの爲めに泣くを止め、汝等自身の爲めに泣け。青木にすら斯くの如くであれば枯木はさぞ燃ゆる事であらう」と婦人に向つて溢るゝ斗りの同情を寄せられたその柔かなる所こそ、限りなき感化力があるのである。また路加の傳ふる所によればキリストは十字架上に在りて、その日同じく十字架に上げられたる盗人を顧みて、「今日汝は己れと共にパラダイスに在るべし」と云はれた、この柔かなる言葉に一種不可思議な力がある。弱いと見ゆる所に無上の力があるものである。剛なる權威ある父が、子を叱する時に拳骨をくらはし、鞭を上げて叩かれる丈けならば子供は滿足しない、親なればこそ叩くのであらうが、その時父が子を思ふ餘りに注く一滴の涙を見たならば、子供は父の情けを生涯忘るゝ事が出來ぬであらう。世には父親と衝突する子は少くはないが、母親と衝突する子は極めて少い。之れは即ち弱者の勝利と云はなければならぬ。宇宙の最も深き精神狀態はナザレのイエス、クリストに於て見る事が出來る。クリストの天啓は神の最も柔かなる方面を示し給ふた所にある。恐れ多いが神にも涙ありと思はしめる點にある。之れ實に非常に力ある所である。この柔かなる所が人間世界に認められて、標準となれば、人間相互の關係も、家庭の有樣にも變化が表はれて來るのである、例へば昔武士の家などは、子たるものは父の部屋に無闇に入る事は出來ない、次の間から平身低頭してその命を聞いたものであが、この犯すべからざる禮義ある所は、當時の下等社會の無作法に比して誠に心地善くまたな

つかしく思はれる所である。然し乍ら遺憾千萬なる事は父の柔かなる所と、自分の柔かなるものとの交捗を見たくも見られない所である。もしその心と心とが相通ずるといふ自覺があつたならばいかに美くしいであらうか。これは今日我が日本の狀態に於て國民として缺陷を覺ゆる所である。我が博愛仁慈にまします　天皇陛下を戴き乍らその柔かなる思召に觸るゝ事が難かしい事である。國民各自が抱ける止むに止まれぬ赤心が少し親しく陛下の大御心と交捗がつけば、どんなに嬉しい事であらう。此處に敎育の事を許し度くはないが、各學校に於て式日には御眞影を仰ぐが、然し陛下の柔かなる御心と交捗のないのは非常なる缺陷である。もし陛下の尊い思召が、子供に迄通ふて居る時は計るべからざる力が存するであらう。この尊い國體に於てこの尊い心が涸れて居る事を遺憾に思ふのであるが、これは近い將來に於て通ふ時が必ずあるであらうと信ずる。これは十萬の兵、百萬の兵よりも國を護るに大切なる所である。先に逝かれた高崎男は「自分は日露戰爭の時に、筆を持つ身であつても、何か國家の爲めに盡したい。それには自分の職掌柄陛下の御製を民間に洩す事が一番よい事であらうと務めて御製を下々に洩した。それで陛下の深く民を思し給ふ大御心がその儘民心に傳はる事が出來たのである。之れは男の見識に感ずべきものがある。畏れ多き事乍ら、その親心とも申すべきやさしき御心には鬼神も爲めに泣き、猛き武士も生命を忘れて潔く戰死したのである。」この間禁酒會々長安藤太郎君から聞いた話に、かの有名な獨逸の鐵血宰相ビスマルクを見た時に、鬼と云ふか何といふか、只怪物が其處にあるを覺えたが、一度ニッコト笑つたときたらどうする事も出來ない、凡ての低抗力を失はしめると。かくの如く剛なる者の一度の微笑すら斯くの如く力あるものである。人間の衷情より溢るゝ温かき涙は、全く人心をわがものにする事が出來る。また同じ獨逸に於てたしかフレデリック王の時と思ふが、若き皇后

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

陛下が町を馬車で通らるゝと、小學校の子供が萬歳と叫んだ、すると皇后は馬車を止め、除ろに下り降たせ給ふて、その子供の一人を抱きてキスをして、「可愛いゝ子供よ、善い人になれ」とて下に置かれた。之れを聞いた宮內省の或人達が、餘りに輕々しい御振舞であるとて、お諫め申すと、皇后の宜はるゝには「皇后になれば可愛いゝ子供でも抱く事が出來なければ、私は皇后たる事を直ちに辭しませう」と云はれたといふ。これは今日も美事として傳つて居る。實にこの皇后の心事のいかに偉大であつたか皇后陛下の一片の柔かなる心事は、全獨逸の民心をどれほど支配し給ふたか、十萬の兵よりも、百萬の軍勢よりも遙かに力强きものであつたに違ひない。このとかき力は眞に人道に出づる力で、動物に求むる事は出來ない、人間の僞りなき眞情より出づるもので、この心に觸れては生涯忘るゝ事は出來ないのである。「柔和なる者は祥なり、その人は地を嗣ぐ事を得べければなり」と。實にその人は世の勝利者である。天地を支配する生ける力を持てる者である。宗教の深い處は、この神の衷情と、我が心の觸れて交捗のつける處にある。神は人類に向つて勝利者であらせらるゝ。キリストはこの神の御心を遺憾なく我々人間に傳へ給ふた御方である。家庭に於ても、社會に於ても勝利者たるの秘訣は、意志の强きにあらず、知識の優れたるにあらず、腕力の勝れたるに非ず、實に愛の心に滿てる柔和なる所にあるのである。

英國近世の神學者ホープス、ロビンソンは僅かに三十七歳を一期として逝つて人でありますが、晩年病にありて、彼れの靈性は愈々進み、祈禱の惠みを深く味ふに至りました一友に語つた言葉の中に「昔は自分はどんな機會をも逃さずに友を捕へてクリストにつき說法したものであるが、今日は大層その方法が異つて來ました。もし自分が眞の神を人に紹介しやうと思ふ時には、その人と三十分一緒に居らるゝなら、その三十分間祈禱して過さうと思ふ」と云つて居ります。なほまた他の場合にも「し祈禱といふ事がなかつたならば、自分は氣が狂ふであらう」と。

漫遊みやげ

理學博士　坪井正五郎

△夏の埃及と冬のナイヤガラ

近い十月ばかりの間を歐州諸方並びに南亞、北米と巡遊して此の頃歸朝したのでありますが、この旅行の目的は主として各國の博物館及び大學を見て來たのでありまして、其の間の事は隨分珍らしく、面白く、且つ樣々な事がありました。其の一々を話さうと致しますと何から緒を出してよいか撰擇に苦しみますが、先づ其の內でこの旅行中最も面白いと感じた二つの事を話して見ませう。と云ふのは埃及を夏の暑い盛りに旅行し、ナイヤガラを寒い季節に見た事が暑さ寒さの兩極端である上からも、又距離の上からもよい對照であつて面白いと感じた事であります。

△盛夏の埃及

八月の中頃カイローへ行つて、此所で埃及の太古の遺跡を二週間調べる豫定でありましたが、其の內博物館の方へ澤山の日を當てゝ方々を步く事はあまり致しませんでした。併しカイローからはあまり遠くないギゼといふ所に行つて、人々のよく知つて居る彼の大きなピラミッドや、又奈良の大佛よりも大きい女面獅子の石像スフィンクスを見ました。その後はサッカラ、メーフィスといふ所へ行きました、先づ其の邊を行つて見た丈けで、時の上から云へばまだ南の方へ行ける時日はあつたのですが、前云つたやうな次第であまり遠く迄は試みなかつたのであります。がピラミッド、スフィンクスを見た人は澤山ありますが、暑い盛りにわざ〳〵砂原を旅行した經驗を持つ人は稀れでありませうと考へます。

カイローからギゼ迄は電車の便があつた丈けに其の間の道は割合に容易に行けますが、ギゼに着いて

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

からピラミッド、スフインクスを見るには驢馬か駱駝の便をからなければなりません、私は驢馬によりて(寫眞參照)ピラミド近く迄行きました。

△砂漠の光景

さて、此の邊の一體の砂の色は獅子か駱駝の色をして居るのでありまして、つまり獅子や駝駱が此の砂の上に蹲まつて居ても遠方から見れば其の姿が明瞭に見分けられない、卽ち此の邊の獸の保護色であるのです、で御

盛夏の埃及と坪井博士

互が動物園などで見る所の獅子や駱駝の色と思へば大差はないのでありまして、茶色を帶びた鼠色といふやうな色です。この砂が全く濕り氣のない所に厚く重り〱つて居るのであるから、此處に暴風が起ると、丁度水の上に起つた龍卷きのやうに沙の柱が立ちます、幸と私は其のやうな中には立ちませんでしたが、屢々其れを遠方に見ました空と地面の上に黒い斜の棒が立つて、一方から他方へと行く樣は實に物凄い光景であります、この

旋風に遭ふと一歩も動く事が出來ぬばかりでなく、其の吹き卷くる砂は眼や鼻に入り、甚しきはこの砂の下に埋められてしまふ事も珍らしくはないのでありまして、實に危險なわけでありますが、私自身はこの旅行中斯樣な事に一度も遭はなかつた事は誠に幸な事であつたと考へて居ります。この砂原の中を歩く時は氣候の暑い事は最早いふ迄もありませんが其の上に砂から反射する日光の火照りが甚い、丁度火事場の燒跡を行くやうなわけで、上からはヂリ〳〵と照り付ける太陽の熱、尚それよりあつい脚下から蒸されるやうな地面の火照りが重つて、實に暑苦しいのであります。それであるから埃及の諸所を見物いたさうとすれば、日中はさけて朝涼の內に出歩くのですが、それでも矢張今申すやうな砂の火照りが强いのでありますから、日中に歩くいふ事は殆ど出來ない、强いてすれば身體をそこねる事にならないとも限らないのであります。

私はギゼに行つた時は日中は少しも歩きませんでしたが、サツカラの時は時刻の都合で是非とも日中通らなければならぬやうになつて、少しの日影もない砂の上を行つたのであまりました。樹木もない家の影もないこの邊の暑さは、傘をさした位ではとても日除けにはならず、且つ下からの火照りは尚更傘で防ぐ事は出來ないのであります、サツカラでは唯一つ、昔、マリエツトが埃及の事蹟研究の爲めに此所に來て休み場所として建てた家があるので、其所へ賴んで休めば日中の暑さだけは凌げるやうになつて居ります、私も其所で日盛りの一二時間を過しました。

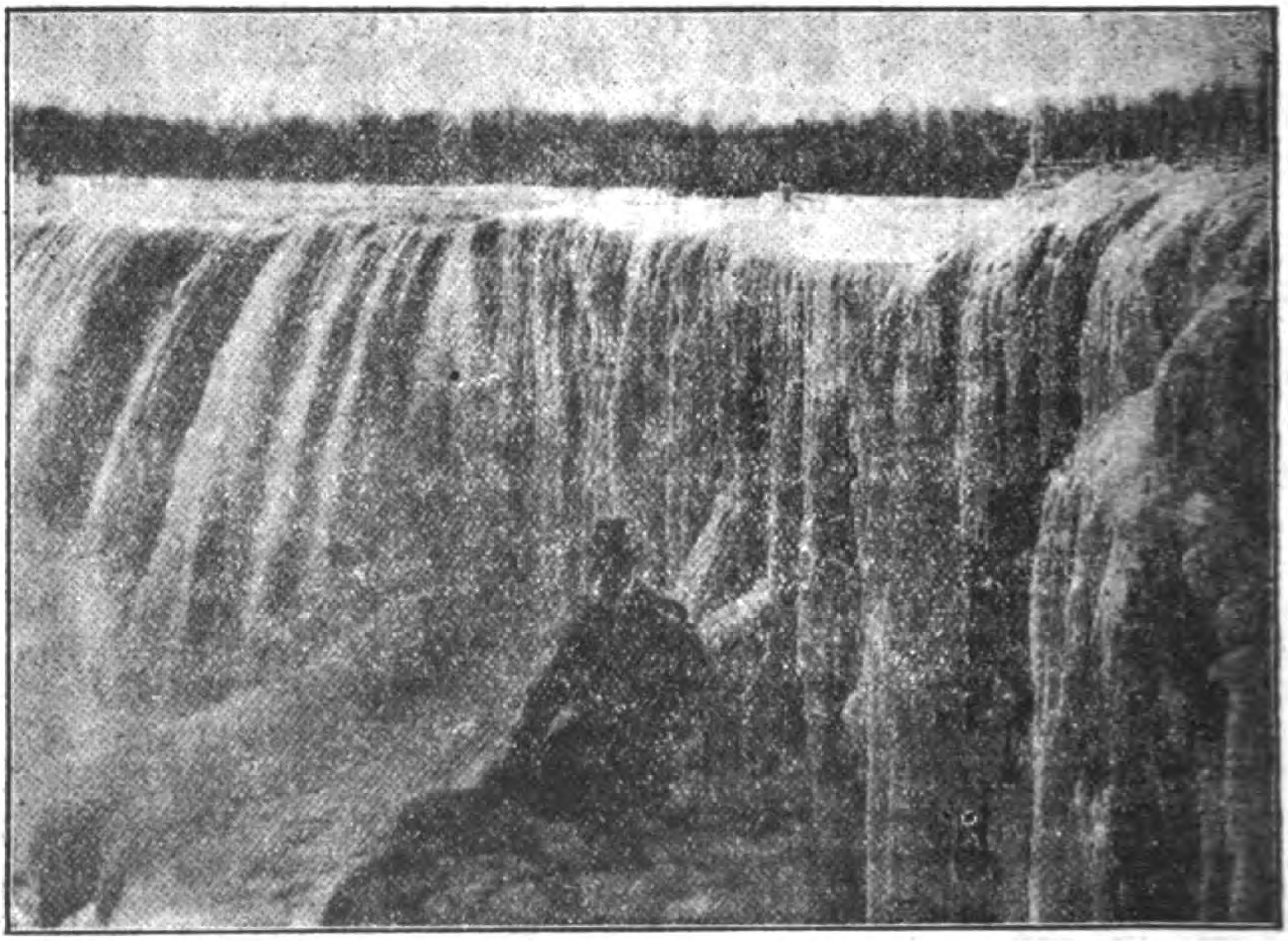
　この暑い道中を面白く感じた事はナイル河畔に近い所々に椰子が生ひ繁つて居つて、あたりに何物もない砂の上に眞黑にその影を印して居る澤山の羊を逐ふて來る土人がこの椰子の木蔭を見付けると其所に憩ふのでありますが、其の時羊も矢張り暑さをさけて其の樹の陰に憩みます、それが椰子の影なりに憩みますから、羊自身は只影をおほふて憩むのです

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が、見ると丁度羊をならべて椰子を描いたやうであります、羊の群れて居る所は白く、樹の影は黒の影を所々に表はして居る。これが先づ砂原の中を暑い時に歩いて見た中の一つの面白い事柄でありました、多くの事蹟といふべき事は他日に譲る事と致しませう。

△動かぬナイヤガラの瀑布

寒い方でいふと、三月の二日にナイヤガラの瀑布の近くに行きましたが



厳冬のナイヤガラ瀑布と坪井博士

其の時は丁度雪降りの時であつたのと、其の前々から降り積つた雪とで地面は全く雪に覆はれて居りました。其れが凍つて居るので、うつかりして歩くと辷り轉びさうで余程用心して歩かなければなりませんのです。私は二頭の馬の橇を雇つて方々を見物して歩きました。

ナイヤガラに近い所には、それと同じ名前のナイヤガラホールと名づくる宿屋があつて、其所から十町程行くともう瀑布に近づきます、場所に馴

れた橋を驅つて或は岩角から、或は川の中に在る島とでもいつたやうな所迄も行つて、珍らしい冬のナイヤガラの景色を殆ど限なく見たのでありますが、その美麗、莊嚴、誠に形容すべき言葉を容易に考へ浮びません、常には百雷の轟き、それにもまして落ち來る大瀑布が大方の部分は凍り詰めて、僅かに一部分丈けあまり音も立てずに落ちて居る、其の時眼に映ずるナイヤガラの瀑布は、丸で綿細工か否大理石の彫刻といはうか靜寂に、清く、美しく、恐らく之れを云ひ表はすことはどれ丈けの言葉を集めても滿足なるものはないと云つても宜しいでせう。その僅かに一部から落ち來る水の繁吹きも、遠方から見ると沸き返る溫泉の湯氣が立ちのぼつて居るやうに見えますが、それが風の爲めに巖又は樹の枝にかゝつて凍るので丁度シックヒで塗つたやうに樹の枝々に氷がついて居ります、繁吹きの多くかゝる部分は其の氷がなくこれと反對の方は薄く自ら瀑の方向をそれによつて示して居る、この結構も矢張り綿細工か、或は大理石と形容したいのであります。

此所を通る時は余程寒いので人によつては耳からかけて頭部を保護する頭巾のやうなものを被るのですが、私は常の儘で行きました爲めか、暫く耳が固まつたやうになつて居りました、僅かの時でも其れ程になるのを見ても此所の寒さの程度を説明するに足ると思ひます。この時の瀑布は、唯上から見下すといふのでなく、危險ではあるが用心して降りて行くと下から其の莊麗を觀る事が出來る、又釘を植え込んだやうな靴を履いて、杖の先きの尖つたやうなものを持つて歩くと、氷の上をも辷る氣遣ひなく上り下りする事が出來る、又或る場所は梯子によつて又はエレベーターに依つて高い所をも上り下り出來るやうに設備してあります、其れ等の便をかりて瀑布の裏に近い場所で玉簾のやうに固つた幾條とない氷の瀑布を見る事が出來ます。偶然雪中のナイヤガラにうまく出會つた事はわざとは行かれぬ夏の埃及と好一對の面白い旅行でありました。（文責在記者）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人と職業

社會生活の變化と女子の職業

法學博士　浮田和民

△職業に就く素養ある事

女子にどんな職業が必要であるかといふやうな事は、一寸決め難い事でありますが、私はとにかく今後の婦人の職業といふ事の問題を考へる前に、先づ婦人にも獨立し得るだけの要素がなければならぬといふ事を申たいのであります。

從來の日本は生活も極單純なものであつて、男女とも或年齢に達すると結婚をする、又容易に結婚さる丶境遇であつた。—最もこれは一概には申されません、舊幕時代には士族の家では長男だけが家を繼ぐといふ制度で、次男以下になると養子にでも行かなければ、家を作ることも結婚する事も出來ないといふ次第なこともありました、が從つて人口繁殖の上からは、自然に制限が加へられてあつたわけで、露骨に云へば墮胎の如きも必ずしも犯罪ではないと

考へられてあつた位であります。この傾きは自然平民の方にも及んで居りました。—人口の繁殖は大抵同じ率を續けて居つて、結局日常の生活が極めて單純でありましたから、結婚も人口に應じて容易に出來る境遇に置かれたのであります。所が維新以後は種々制度が改められて、人口も次第に繁殖するやうになり、殊に近來社會の活動は益々烈しくなつて、同時に人間の生活範圍が擴くなつて來まして、外國へ移民する者も續々出來るといふ有樣になつて參りました。今日まで英人は日本を見て「日本人の特色は或年頃になると皆結婚して居る、三十歲位の男子は大抵妻子があるが、英國で結婚をして居るものは大抵年寄りか、富有の者、或は下等社會の勞働者である」といふ事を申て居りましたが、今後の日本を考へると果して男子が三十歲になつて結婚をなし得るか否かは問題であります。男子の結婚難は同時に女子の結婚問題であつて、從來の如く男子が二十四五歲、女子が二十歲前後で結婚するといふ事は、實際今後の社會には望まれぬことであります。そうなると婦人は婦人で獨立なし得るだけの素養が必要になつて來るわけであります。よし又結婚しても今後は共稼ぎの覺悟でなければなりません、中流否一般に何かの職業の素養が必要になつて來ることは疑いのないことであります。

△女子も結婚のみを當にしてはならぬ

先づ今後の女子の覺悟としては、從來の如く結婚をあてにして物事をするといふ考へを除らねばならぬ、結婚といふ事が婦人の最後の目的でなくなれば從つて萬一は終生獨身生活を覺悟せなければならない、勿論結婚は人間の爲すべき正當の道であるから順當に行けば相當の男女の凡てが結婚するやうになり度いといふのは變らぬ原則でありませうが、今までの如く結婚せぬ婦人は肩が狹むとか、恥辱であるとかいふやうな考は斷然とらねばならぬ。從來はすべてが單純でありましたから、結婚以外に婦人を役

に立つ位置に立たせる事が出來なかつた、從つて結婚せぬ婦人の肩身が狹く、女子の面目を保つ事が出來なかつたのでありますが、今日は婦人もだん〳〵社會公共の爲めに盡され得る位置が開かれつゝあるのでありますから、萬一獨身で行つても婦人が世の中に盡すべき餘地が澤山ある、人間世の中に生きて何か世のために盡すことが出來れば、それは何れの方面よりするも論ずる範圍ではない。そこで婦人の問題として今日直接に起つて來ることは、社會及び敎育者が、まづ婦人が世に盡すべきその道を與へることに盡力しなければなりません。

△如何なる職業を撰ぶべきか

それでは如何なる職業がよいかといふと、これは深く考へなければならぬことで、一朝一夕には定め兼ねますが、原則はあると考へます。男女各々性を異にするから、女子は女子の天性に應じたものでなければならぬ、男子と或方面に於ては競爭になる場合もありませうが、又或方面では競爭せずに濟む、全く女子の任務に適應したる場所で盡すことが必要であらうと思ひます。今後機械で凡ての事をするやうになると、今日の男女の職業は又幾分破壞されるかも知れませんが、それにしても男女の天性に應じた事をする餘地は澤山あります。先づ現今迄に開かれて居る日本の婦人の職業は、例へば日本の衣服の如きも何時まで行はるゝものか、それは豫想出來ませんが、此等の事は機械でする工合には行かぬ、是非とも從來のやうに女子の仕事であります。男子にも裁縫に巧みな人はありますが、一般からいふと斯道の如きはやはり女でなくては出來ぬことであります。又看護婦の如きも男子には性質上中々出來にくい、小さき事に注意する綿密なこと、ちり〳〵苦しみに堪へるといふ事は男子には適して居ない、やはり此等は婦人の長所で其の職業の中に加へて最もふさはしい事と思ふのであります。

又普通一般の敎育卽ち小學校の敎育は婦人に最も

適する仕事であると思ふ、子供を取扱ふ事は男子は天性下手である、子供の性質をよく察して行くにはその本能卽天性に子が可愛いゝといふ情がなくてはならぬ、男子にもこの情がないのではないが、婦人程に注意周到でない、子を持たぬ人でも柔しい婦人には母心といふものがあります、どうしても小學校の教育は將來半分は女子の手に歸するやうありたい或は男子の仕事が愈々複雜になれば、終には普通教育のすべては女子の手に歸するやうになるかと私は思ふのであります。

その外に婦人の職業も尙色々あります、電話交換局、郵便局の如き所にも隨分澤山の婦人が用ゐられて成効して居りますが、猶一層婦人にすべての門戸を開く事が必要であると思ひます。英國あたりでも婦人の選擧權の運動が盛に起つたが、つまりは婦人の法律の位置を作つて行かうとするのでありませうが、あれも唯參政の權を與へらるゝだけでは何にもならぬ。實際生活の上に自由な位置を與へなければならぬと思ふ、米國の某雜誌に出て居る彼の國民の職業別を見ると三百三種類に分れて居りますが、其の内婦人の携はらぬものは唯二種類しかありません斯うなると婦人の働くべき道が餘程自由でありますから、英國のそれの如く女權擴張運動ではあまり騷がない。

△今後の女子教育に望む

日本の婦人は今が過渡時代であります、女子教育も今の處まだ餘程低いから引締つた處がない、さういふ事から教育を受けた女子自身が女子教育の敵を作ることもあるし、社會の實際が女子に職業の道を開いて與へても、女子自身がそれに應ずる丈けの素養がなければ自然と又其道は塞がれてしまふといふ場合もある。日本の今の女子教育は未だ其の方針が余程不公平であるから、教育の弊害もないではありませんが、先づ女子自身が眞に教育の必要を認めてその輿論を起し、その生活範圍の門戸を開くやう盡

力せねばならぬ事は云ふ迄もない。さうして行くには婦人の個人的生活の上から云へば、或は從前の單純なる生活の幸福を破るといふ事になるかもしれませんが、之れは時勢の然らしむる所、過渡の時代であるからどちらにも偏らぬやうに其れ丈けの努力は拂はなければなりません。で一面には新しい敎育を受け、一面には又古い考へを持つた在來の習慣にも辛捧出來るやう、自ら修養して敎育の感化を完全に受け得らるゝやう務めなければなりませぬ。其所で敎育を施す方の側から申すと、今日盛んに云ふ良妻賢母と云ふ事も、もとより望ましい事で誰もさうなくてはならぬが、しかし今後は誰も妻になる爲めの準備敎育では足らない、論よりも實際問題として今日は結婚する人とせぬ人とを眼中に置いて敎育せねばならぬ、一般の人は婦人が高等敎育を受けると傲慢になるとか、威張るとか云つて女子の敎育を嫌ふ人がありますが、これは深い考へではないと思ふ。私の考へでは、一般普通敎育を卒へたる後は多數に實用主義の敎育を兼ねた中等敎育を施す方法をとる例へば女子職業學校及び女子商業學校もその端緒であると云つて宜しい、尙進む人は別に高等敎育の門戶を開いて、其個人々々の特性を發揮せしむることが必要であると思ふ。女子の天才を養ふといふとは同時に男子の爲めに、國家のために益することがあるから、人物經濟の上から申しても必要のことであると思ひます。斯くして敎育及び社會が女子の生活範圍に自由な位置を與へて行くやうにあり度いと思ひます。

一にして二にあらず

基督にありては愛人と愛神とは一にして二にあらざりき。そは彼れが神を愛するは人の人たる眞人を愛する心と異ならざりければ也。

基督にありては道德と宗敎とは一にして二にあらざりき。そは彼れが宗敎は畢竟道德の道德たる眞道德、所謂道德を超越して而かも其の點の活源頭たるに外ならざりければ也。

（綱島梁川）

女子の職業に就ての卑見

廣岡淺子

△遊戯的なる婦人の職業

私が見ます處によると、どうも婦人の職業は多く遊戯に屬して居るので、眞實の發展が無いのみならず、婦人自身にも餘り有効でない樣に思はれます。或は職業は男子の領分で、婦人がなすのはその補遺に過ぎず、また自分から云へば所謂内職に過ぎないと申されるかも知れませんが、それでは苟も社會の要素をなして居る職業といふものに取つて、申譯がない筈であります。職業といふものは、もつと眞面目なものだと思ひます。**然るに我が國で最も大きい婦人の團體の如きも、**時々その婦人間に出來る手工品などを集めてバザーを開きましても、全く人々がお情けに買ふと云ふ迄で、これは決して競爭場裡に持ち出される樣な品ではありません。また學問も相當にある團體で、實業部といふものを置き度いといふので、始め私もその計畫に預り、兎に角雜貨部、書籍部、銀行部、園藝部等を設置したはよいが、幾年經つても何の發展もしない。これ等は一定の顧客を持ち、義務の需要者あるに安んじて居るので、自然眠つて終ふのであります。然らばこれよりの婦人の職業はどうならねばなりますまいか。

△計畫者たる智識を持つ事

これ迄女子は工場ならば工女でと云ふ樣に、全く手足となつて働らいて來ました。職工としてならば、從來の我が工業物産の過半は女子の手になつて居ると云つても差支へないのであります。然しこれから

は教育ある婦人が事業の計畫者となる事が大切であります。事業計りではない、製作品でもその意匠を案出するものと成り度いのであります。かの森村組の紐育支店長の村井保固氏の夫人の如きは、米國人でありますが、誠に感心な方で、實によく夫を助けて働らいて居られる。それで只手足になる計りでなく、その組合專賣の陶器の模樣などに就ては、常に世界の產物に注意をして居つて、今度はかやうかやうに試みたならば如何でせうか。此の色はこう改めたらばよいでせう等と注意をする。その通りにすると何時も人の嗜好に向くといふ風で、非常に事業發展を助けられたさうであります。これは實務に齷齪しなければならぬ男子の爲めには、何よりも大切な助けとなるものであります。然しその計畫者となるには、どうしても婦人にもつと頭を作らなければなりません。今日のやうに女子と云へば何でも構はず不明瞭な家政學などを無暗に詰め込んで、社會を見る眼もなく、物の價値を判斷する智識も乏しい樣では、却つて夫の事業の助け手としても不適當である樣に思はれます。

△數の觀念を養ふ事

婦人には數の觀念は皆無と申してもよろしいと思ひます。高等女學校邊りの數學を教へて居る者ですといふ者でも、實際の社會に關係ある數になると、まるで無茶苦茶である。それ故に計畫などたてると云ふても、空中樓閣で、とても實際に行れない樣な事をするので、實世間に經驗ある者は、何、机の上の繪圖引きかと輕蔑する樣になり、計畫者自身は遊戯をして居る樣になる。この數の觀念を養ふには、やはり實務に携つて見るのが何よりです。女教師なども只黑板に斗り數を書いて居らずに、少しは廣い世間と關係のある仕事の仲間入りをして、苦勞して見る事が必要だと思ひます。春夏秋冬と一と口に云へるけれども、木の芽が萠え出で、花が咲き、葉が茂り、實を結び、落葉する迄には燒かれる樣な暑さ

もあれば、枝を折らるゝ様な嵐もあり、斬られる様な霜雪もある。而して三百六十五日經過しなければならいのである。

△自分の試みつゝある事業

私は十年前大阪の愛國婦人會支部で、遺族の爲めに授產場を設ける時、最初から遊戯にならない様に注意し、幸ひ相當の敎育ある婦人で、熱心に働らいてくれられた者があつたので、今日立派に進步發展しつゝ行く事が出來る様になりました。先づ遺族にはミシンを習はせ、巡査とか、郵便局、電氣局、軍人等の服を商賈人と競爭して請け負ふて裁縫させるその裁ち屑でも何か利用の方法を考へ、その上に多くの人々であるから、日常の賄もその買ひ方を研究して、卸買ひをするといふ様にしたので、今日では會に相應の資產が出來、且つ世間からは授產場で拵らへたものは、持ちがよいとか、品質が確かだとか云ふ信用を得て、仕事は益々多くなる、新計畫の道は彌々開いて來るといふ有様であります。また遺族の方でも、初めは一字も文字を知らぬ者でも、此處に來てから毎朝就業前三十分、算術、讀み方、修身等を敎へるので、この頃では曲りなりにも手紙も書ける様になり、仕事の方でも一ケ月多きは二十五圓少くても日給十五錢は取れるのである。この人々にも成る可く節約させるので、各自に貯金も大分出來て居る有様であります。

△今後の發展

昨夏私は上州信州の養蠶地を巡つて、養蠶に關する事を調らべて見ましたが、まだこの方に婦人が發展する餘地は充分にあります。それで遠からず朝鮮に於て養蠶事業を試みる積りで、略ぼその土地の撰定など致して居ります。これは始めは自分で投資して試みる積りですが、もし見込みが立てば、かの地に於てつまらなく遊んで居る日本婦人、朝鮮婦人等も澤山ありますから、その人々に働らく道を與へる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事にもなり、また日本官吏の婦人等が、只夫の金を贅澤に使ひ暮して居るのがありますから、かやうなお金を生かして用ゆる樣に奬勵致したいものだと思つて居ります。婦人がも少し殖産的になる事は富國の原因ともなり、また婦人の智識養成ともなるのでありますから、これからの婦人は、只敎員になる斗りでなく、各種の方面に發展して貰ひたいものであります。

△事業の根本

然し此處に是非一つ考へていたゞき度いと思ふ事があります。私は若い頃一家の浮沈に係はる必要上男子の立つべき競爭場裡に飛び入り、まだ二十五にも足ない頃から、荒くれた鑛夫を相手に鑛山を經營して見たり、或は銀行を經營して大金の運轉をやつたりしましたが、とにかく之れ等の事業には成効しまして只一身の榮達といふ事斗りでなく、常にわが婦人界の爲め、國家の爲めといふ念慮があつたので相當に公共事業にも盡した積りであるが、今から考へると實に一つの缺陷がある。即ちそれは自分が少しも靈的の修養がなかつた事であります。その爲めに自分が公共の爲めに盡したと思つた事も間違ひ多く、自分も亦只事務的の人間であつて、神より下された一個の人間としては、實に缺點だらけである事を氣付き、その缺點は延ひて自分の周圍を害つて居つたのであります。然し後れながらも六十歳にして醒め、次第に神を求めて昨年のクリスマスには受洗して遂に神の國に入れらるゝの喜びを見る事が出來ました。自分は今日靈の世界を見るを得たる喜びの何物にも代へ難いのを思ひ、どうか何人にもこの喜びを知らせたい。またこの靈的の生命が土臺となつて事業が築かれて居る所は、たとへ日曜は休みましても、人々が生々として業務を取るので、事業も從つてよく成長するのを見て、今後その靈的の生命を與ふるクリスト敎が、何事をするにも根本にならねばならぬといふ事を深く感じて居ります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會への御相談

小橋三四子

△友の來訪

夜に入つて尙ほその日の仕事が終らないので、瓦斯の下で頻りにペンを走らせて居ると、門に車が止まつたかと思ふ間もなく、玄關の格子戸をけたゝましく明けて、案内を乞ふと思ふと、私の部屋に聲かけながら入つて來た人がある。顏をあげると私の親しき友で、今婦風會に働らいて居る人であります。

「あなたの顏が大變輝いて」と、私は挨拶に代へて友の顏に目を注いだ。「嬉しい事があつて、早くお知らせしやうと思つて、車に飛び乘つて來たんです。まあ御免なさい。私に話さして下さい」とて語り出でたのは、藝術に稀れなる天才を抱き、高等の學府を終つて、更らに外國に思ふ樣に學び、異郷の師友にその秀才をもてはやされ、醉ふが如き四年の歡樂の生活を送つたが、さて

北米の天壯なれど
英州の意氣豪なれど
搖籃の地に代ゆべしや

と歌つて、故郷に小踊りして歸り、忽ち理解なき周圍の狀態に、恰も浦島の如き絶望を味ふて居る友の身の上に就てゞありました。

△ある友のうへ

その友は今彼の女の母校の寄宿舍に居を据え、其處に教鞭を執つて居るのであります。婦風會の友は今日用事の爲めにその近邊に行き、久し振りで圖らずも其處を尋ね、四時間の長き會話に何の心に觸る

る事を聞かず、飽き足らぬ思ひに、夕餐を共にして居ると、熱心な心はさしも彼の女の心に通じ、自ら假面を破つてその衷情を吐露さるゝに至つたと申すのです。そして彼の女の云ふには、「世の中に出るのは多少の後と押しが入る。さればと云つて持ち上げる人の手に乘つて、高く揚げられて、すぼつと落されるのも嫌なれば、理解なき人々の前に膝づいて、强て容れられんことを乞ふのも嫌で、結局獨りで自分の藝術を樂しまうといふ無理なあきらめである」と知れた。心から彼の女の藝術を愛して居る友は、微力ながら僞りなき心をもてる同士が、力添えしてその天才を發揮する道を啓く事は、その人を生かす計りでなく、廣く人物經濟といふ點から見ても大切な事であると思つて「自分は突差の間にその道を拓くに就てかく／＼の方法を考へたがいかゞ」と話すと彼の女も非常に喜ばれ、自分も亦この人に少しでも希望を與へられたと思ふと嬉しくてたまらぬ。就ては私にもその計畫の相談に乘つてくれぬかと云ふ事でありました。私もかねて彼の女の天才を愛する一人であり、今またこの友の義氣を嬉しく思ふたので、更くる迄二人は彼の女の爲めにいろ／＼と考へその行末の幸を祈つたのであります。然し同時に私の胸にはかやうな才能を抱いた者を、微力なる私共が助けなければならぬといふ事に、無限の悲哀を覺ゆるのでありました。

△女子の職業問題

この夜の事は、自分が久しく考へて居つた事に序文を與へてくれた。それは女子の職業問題であります。今は尙女子の職業を結婚といふ事で解決しやうと云ふ一般の考へであり、また女子の高等敎育といふても、職業としては敎員を養成する事か、然らざれば良妻賢母の養成にあるので、多くの女子はこの何れかの方面に向ひ、割合に無事であるが、然し婦人と職業の問題は日一日と喧しくなつて行きつゝあります。之れは一般の經濟難と共に、結婚後も職業

を求むる者多くなりし事と、今一つは男子の敎育が著しく職業的に偏し、人としては却つて女子の理想高く養はれたる處より、結婚に困難を生じ、從つて職業を求むる婦人ある事や、もしくは多くの高等の學府に集りしもの丶中には、止むに止まれぬ興味から、或專問に向ひ、その專問を社會に施さんとするより起る職業難等であります。之れ等は婦人の本分より見れば、特殊であるかも知れません。が決して嘆かはしい事ではなく、これによつて婦人界の要素は彌々豐富になり、一般婦人の進歩ともなれば、社會の發展ともなるのであります。然しかゝる人の立場が、口に云ふ如くさやうに容易く認められたならば、何の問題もないのでありますが、其處に逢する迄には、道に横はる障害を啓く爲めに多少の犧牲者もなくてはならないのはもとよりでありませう。同時にこの障害は社會と婦人、または婦人同志の相談で幾分少くする事は必ず出來る事と信じます。先づ第一の相談は

△特色ある人を理解する事

であります。故本多監督が「今日の敎役者が稍もすれば自分の手に合はぬといふ點より、特色ある青年を忌んで、只をとなしき老成の青年を用ひやうとする傾きのあるのは、大に戒しむべき事である」と云はれたのは、さすがに卓見であります。之れは只敎會計りでなく、學校に於ても、社會に於ても同樣の弊に陷り易いのであります。敎師、先輩は只わが手足とするに都合よき人を、價値以上に買つて、然して特殊の才能を抱ける者の、多少色の異れるを恐れて、踏みにじつて終う事が多く、殊に女子は特色ある爲めに、社會はをろか、その家庭に於ても全く理解なき空氣の中に窒息させられて終う事が多いのであります。昔から天才は多く逆境に終つて居る、天才と云はぬ迄も、多少の特色を以て世を渡らうとするのは困難はもとよりであらうと申さるゝかも知れません。然し歐米の婦人に日本よりも專問を持ち

續ける人多く、また特色を以て、自由に世渡りをして居るのを見れば、我が社會に於ては、僅かに數ふるに足るこれ等専門の技能ある婦人を容る餘地のないのは、何といふ狭い事でありませう。畢竟これは人々がなほ封建的根性を以て人を律しやうとするからであります。人を人間として愛し、その才能を惜しむよりも、只自己中心で人を左右するからであります。これは殊に教師や、社會の先輩の心すべき所であります。これ等の人は自分の全く素養なき、趣味なき方面にも、なほ己のが權力を以て人を率ゐやうとせずに、謙遜な心を以て、また厚き同情を以て先づその人を理解しやうと務めるならば、手に終へぬといふ者の裏に相當の理由を見出し、之れを育てゝ行く事も出來れば、社會に有用な人として働らかす事が出來ます。第二には

△相當の職業を與へよ

と申す事であります。嘗て一友が職業を失ふた時他の一友がこの友の煩悶を聞きて、「あなたはもう命がけの仕事を持たねばなりません」と忠告がましき手紙を送られた時程、人の心を冷やかに覺えた時はないと云はれた。「神よわれに何をなさしめんとし給ふや」と祈る心は、天職の爲めに命を摩り減されつゝある時「わが苦き盃を聖旨ならば取り去り給へ」と祈る心にもまして苦しきものでありませう。否天職の爲めに一命を投げ出し能ふ人は幸福なる者であります。兎に角人に職業を與へんとする時は、その人の立場に共に立ち、その人と同じ心に先づなつて考へ度いものであります。或は申します。世の需要に應じ、犧牲的精神を以て働らけば、職業は至る所に溢れて居ると。然し先輩の少しの配慮を以て、適材を適所に用ゆる事が出來たならば、それほど人間に取りても、社會に取りても幸福な事はありますまい。先きの友が「社會に出づるには少しの後を押しが入る」と申したのも、此處でありませう。何時の年であつたが女子高等教育會議の席上で、津田梅子

女史も、女子の發達の爲め同樣の言葉を吐かれた事を記臆して居ります。第三は

△職業に相當したる實力

を授くる事であります。本誌の一月號の小此木松子氏の讀書餘錄にも紹介せられてある「婦人と勞働」の著者シリーナー夫人が「今日の喧囂な社會問題の下に聞かるゝ主調音は我々に職業とこれに相應する訓練を與へよと云ふ事である」と申して居ります。格別に天才を抱ける者がいかなる障害にも打勝つても專門研究をなし續け得らるゝ者は格別、今日の普通の女子敎育を受けた者が、いざ職業に就かんとする時は、多大の困難を感じます。それは實力の無い事であります。敢へて敎員の資格とか、若しくは他の職業敎育を意味するのではない。必要あつて職業敎育を受けんとする時も、その土臺から築き上げなければならないのであります。例へば店員にならうとしても、算術も簿記も覺束ない、タイプライターをしやうとしても英語の力がない。賄方を引き受けやうとしても、物の買ひ方、漬け物の仕方が解らない、料理の先生とならうとしても、その智識が不明瞭であると申す始末です。彼れ等の五年、若しくは八年の敎育は、一家の主婦たらん準備にあるとしても、その主婦の執るべき仕事が一々立派に仕込まれて居つたならば、これを應用して一つ一つが職業になる事が出來ます。然し婦人自身もそれほど眞劔になつて勉强しても居らず、また女學校の敎育も餘り氣樂過ぎるやうに思へます。

△結婚と職業

結婚と職業とは自ら別に考へなければならぬ。然るに今日は職業を求むる婦人にも、專門研究に身を委ねんとする婦人が働らく範圍を求めても、先輩や社會の人は、只結婚せよといふ計りであります。これは人に取りては命掛けの仕事であり、神の前には神聖なる結婚といふ事に對しても、また人の生くべ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

き道であり、神の國の爲めにはその要素である職業に對しても、孰れにも共に侮辱を與へた話であります。結婚を女子の生活の保障の爲めに行ふ時代はもう過ぎて居ります。結婚は眞に人間の靈と靈とが結合する意味深きものにならねばなりませぬ。また職業や、專門研究が結婚と共に投げ出されて終はなくとも善いでありませう。先きのシヲーナト夫人が人々が職業と之れに要する訓練を求むるは、只自分一個の爲めでなく、人類の爲めに必要であると云はれて居るが、これ婦人が結婚後直接に職業を執る暇なくとも、之れを間接に保護し、後輩の爲めその道を愈々廣く啓く事に心掛けられたいものであります。

うめくさ

森村市左衛門翁が嘗て七十年間の苦戰の賜物さして語られた詞に、「私は人らしいものにも及ばぬ平凡な無學な白髮の小僧で、只死ぬる迄、自身に務めて、人らしい方に歩んで行き度いさ思つて居りますものであるが、然し十五歳の時より晝は天秤棒を擔ぎ、夜は大道に莚一枚で露店を出したさ云ふ極度の貧苦を嘗めて、七十年間苦戰を續けて今日になつたおかげに、私には何物にも味さいふものがある。年の暮に自分で働らいたお金で借金をすつかり返してしまつて、さてやう／＼一枚の餅を買つて來て、先づ佛樣にあげ、自分等も雜煮を祝ふて年を越すさいふ愉快な味は、到底、金持ちに育つた人には解らない。金持ちに育つた子供は不幸なものであります。彼等の懷に這入つて居るお金は、假令贅澤であらうが何んであらうが、少しもその味に違ひはないのである。自分で骨身を碎いて、稼いで初めて一錢でも誠に尊い有難い味があるのであります。また私共はどんな困難に遇はうが決して狼狽しない。飛り間違へば明日からでも莚一枚にもなり、バスケツトを提げて歩く計りであるさ思ふから、困難が矢に降つて來ても、自分の膽は端然さ据はて居る事が出來るのである」さ。

わが受洗に就て

志立たき子

曩きに大阪教會に於ては二人の特色ある婦人の受洗者を出しました。同教會の牧師宮川經輝氏は或夜會衆の人々に信仰に入る諸種の道を語らるゝに當り、この兩夫人を積極消極の方面の例に引かれたさうであります。一人は本誌別項にその談話を掲げたる廣岡淺子夫人で、一人は志立たき子夫人であります。廣岡夫人の六十歳にして始めて心靈の修養に志し、一瀉千里の勢を以て、二年中にして、遂に受洗せられたるに反し、志立夫人は福澤諭吉翁の息女と生れ、早くより宗教を耳したるも、ありとあらゆる疑問に迷ひ、或時は神の存在をさへ否定するに至つたのであります、が、遂に今年に至りクリスト教ならざるべからずといふ事、明らかになれると共に、なほこれより進んで神に接近して、眞の宗教的生活に達するは、遙かなりとも、背水の陣を張る必要ありとて先頃、受洗せられたのであります。もとより靈的修養の經路は微妙にして、之れを委しく發表するのは難い事でありますが、然しまたかゝる事に於ては、人の經驗は多大の參考となるものと、乞ふて、左の一篇を得るに至つたのであります。

○

私が大阪教會で受洗するに至りました譯を委しく申せば、誠に長い話で、話の順序として、私が口外するを欲せぬ事まで云はぬと誤解を來す恐れがありますので、一切云はぬ事にして居りますが、折角のお尋ね故、私の子供の時からの事なりと申上げます

私は子供の時から宗教の談が好きで、父の處へ僧侶が來て、談が宗教の事になりますと、うつかり聞いて居りました。無論半分と解りはしませぬのでしたが、解らぬ處が解り度、猶聞き度くなりまして、父に種々へんてこな質問をして笑はれ、終には餘り理屈を云ふとて、母に叱られた事もありました。獨りで書物箱の中から、眞宗の御文章を見付け出して讀んで見ましたが、ちつとも解りませぬ。其内クリスト教とは全體如何なる物であらうかと云ふ考へが湧いて來ました。何でも聖書を讀めば解ると思ひ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

また本箱を探すと、英字の聖書がありました。それから父の許しを得て、某英人に就て英語の稽古かた〲聖書を敎へて貰ひましたのは、私が十五歳の時でありました。

○

當時それと自分には氣付きませんでしたが、是非を識別する時は　クリスト敎が標準になり、又人間の毀譽を顧慮して、己れの所信を曲ぐ可らずと思ひましたのも、全くクリストの感化であつたと存じます。此時に私に適當な法を以て導てくれる人があつたなら、直に信者になつたであらうと思ひますが、私が滿足する樣に說てくれる人に出會ひませんでした。聖書の講義も、說敎も隨分聽き、私の宅へ態々話をしに來てくれた牧師も數人ありましたが、其人〲の云ふ事は、私に滿足を與へず、私の思ふ處を云へば、それではクリスト敎にならぬから、斯々思ふて洗禮を受けよと云はれますが、私はさうは思ひませぬから止めませうと云ふ樣な事で、いつも分れて終ひました。此場合私が何故に佛敎にも儒敎にも入らなかつたかと申せば、一度クリストの博愛――無我の愛と人間世界の名譽心、野心を全く去つた處―に感じた者は、到底他の敎へでは滿足出來ませぬ。

其内宮川、海老名兩牧師が大阪ホテルに於て宗敎の演說をされた事がありまして、私も聽きに參りました處が、不思議にも兩牧師の云はれる處が、私の兼て思つて居る事によく合て居りました。是は妙だと思ひましたが、今一段確めねばならぬと思ひ、宮川牧師の說敎を勉めて聽きに參りまして、自問自答して居る內、私の思案に餘る出來事が私の身上に起りまして、獨り頭を痛めて居りましたが、宮川牧師の御敎示により決斷も付き、大なる助けを得ましたそれから引續き每週聖書の講義を伺ひ、私の考へも申しましたら、受洗せよと云はれました。私は洗禮を受けてクリスト信者と云ふ名が付いても、私は別に變るとは思ひませぬが、此のまゝでよろしくば何時でも願ひませうと申して、終に受洗いたした次第で御座います。

婦人は太陽の如くあれ

井深花子

△婦人の使命

婦人の中には、之れ迄大事業を爲し遂げた者も尠くは御座いません。例へば敎育界に於けるメレ、ライオン女史の如き、婦風會に於けるウヰラード女史の如き、詩人としてのストー夫人の如きでありますが、之れ等は婦人の中でも特別に神樣から撰ばれた人で誠に何萬人中の一人と申しても善い人々であります。されぱとて多くの婦人が撰ばれて、外に計り出て働らく樣になつたならば、婦人の使命がお留守になりはしますまいか。婦人一般の務めとする事は寧ろ目に見えぬ處にあるので、決して大事業、大目的を遂ぐるのが、その本分ではない、その才能によりて社會を美化する、換言すれば自分の置かれた境遇、才能に應じて小さき天國を作り、其處より出來る丈け廣く世の中に感化を及ぼす事が望ましき事であると考へます。小さき天國と申すのは、なほ太陽の如く、この宇宙に太陽が中心になつて、多くの人々が光りを浴み、その恩惠を知らず、識らず蒙れるにも譬へつべきものであると思ひます。

△太陽の働らき

太陽は如何なる働らきを致して居りませうか。第一暗黒な處に光りを與へて居ります。第二にはその光線は物を消毒する力を持てるものであります。第

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三は太陽は萬物を育つる力があるものであります、植物ももし太陽無くば、あの心地よき青々とした色を見る事が出來ない斗りか、決して花咲き、實を結ぶ樣に延びは致しません。第四には日の影と申すものは、誠に人を爽快に致すものであります。幾日も日が見えぬ梅雨の頃は、いかにも鬱陶敷いでは御座いませんか。さて目を掲げて今日の婦人界を見ますと、英國に於ては婦人の參政權を得やうとの烈しい運動が行はれて居るのみならず、支那に於ても、この種の運動が起つて居るさうであります。私は卑屈でもありませうが、かやうな聲を聞く毎に、之れは果して婦人方が眞面目で考へて居らるゝ事であらうか。英國などはもはや女子の高等教育も普及し、婦人に餘力があるから、まだしもであるが、支那の如き、日本の如きは、それ丈けの猶豫はなく、まだ神樣から與へられた使命を完うしないのではあるまいかと思ひます。私共婦人の務めは殊更らに務めて爲すにはあらずして、太陽の如く絶えず一つの働らきを爲し、不知不識の間にその感化を四方に及ぼして行く事が出來るのであります。私共は皆與にこの責任を完うする上に準備が出來て居るかどうか、よく反省してこれを考ふると同時に、修養を忽かせにせぬやうにせねばならぬのであります。然し斯く申す自分もお恥しい事作ら二十年前、三十年前に自分で嫌だと思つた事さへ、まだ依然として改まらずに居るといふ仕末であります。

△萬物の光源となる

私共が太陽となり、萬物の光源となるには、自分自身が充分の光りを持つ事が大切であります。その光りを持つ爲めには、神樣の仰せられた樣に「神の國とその正義とを求めよ」と云ふ事を第一心掛け度いものであります。四五年前に私は或方の話を聞き今も尙耳の底に響いて忘られない事が御座います。それは朝鮮に住まれる方で、御主人は非常な敏腕家でありますが、只一つ惡い事には、骨牌を引くのが

好きで、それ斗りは柔順な奥様も、涙をこぼしては諫めるのが常でありますが、どうも矯らない。然るに或夕御主人は札の束を持つて歸られ「なんぼお前が骨牌が嫌いでも、これを見たらばいやな氣持ちはしなからう。これを皆お前に上げるから、何んでも好きなものをお買ひ」と申された。奥様は平生の柔順に似ず、「私は一文でも汚れたお金は欲しくは御座いません」とてそのお金を溝に投げ込んで終つた。御主人は奥さんの衷情を汲んで、遂に其の夜より骨牌を弄ぶ事が止んだと申す事であります。この奥さんの如きは、實に女らしくあり乍ら、正義の爲めには一歩も讓らぬ強い處があつたので、夫を感化する事が出來たのであり

ます。かやうな方はまたそのお子さんをもどんなに正義に育てられるかと、誠にゆかしく思はるゝ次第であります。之れに反して數年前教育家の收賄事件が行はれた時に、新聞の報道によると、皆その奥さん方が虚榮心に充ちた方で、百圓の收入なら二百圓、二百圓なら三百圓の生活がしたいといふのであると申しました。私はそれを聞かぬ前から、必ずそれは夫人の虚榮心が半ば手傳つて居るのであらうと察して居りました。クリストは四十日四十夜斷食して後、惡魔の誘ひに遇ひ「この石をパンとせよ」と云はれた時に、斷乎として「人はパンのみにて生くるものに非ず」と云ひなほ巨萬の富にも、榮譽ある位にも頭を下げ給はず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自分の慾の爲めに神様より預りし力を使ふてはならぬといふ事をお教へになりました。婦人の品性は自分一個の榮枯にあらずして、家庭に、社會に、知らず、識らずに及ぼすべきものである事を常に覺れてクリストに習ひ、誘惑に打勝つて、曇りなき家庭、社會の光りとなりたいものであります。

△殺菌の力を持つ

次には太陽は殺菌力に富むのであります。日の照らす處には、不潔のものも爲めに淸まる事が出來ます。私共は果して殺菌の力を持てるものでありませうか。否々わが心の内にさへ尙多くのバチルスありて、常に信仰を蝕み、中々周圍を淸めて行くなどは思ひもよらぬ事に思はれます。然し我々は信仰さへ進めば、必ずいつも太陽の如くに輝いて居る事が出來、自分に接する者をして淸めて行く事が出來ますこれは自分が殺菌の力あるにあらず、神わが内にありて常に殺菌の力を與へ給ふのであります。

△物を育つる力

第三は心に滿てる溫かき愛の心が、周圍の事物に生命を與へて行く事が出來るのであります。私共信者程、愛、愛と云ふ者はないのでありますが、然し多くの人がその愛に就て、少しく誤解はないでありませうか。聖書に他人に親切にせよとは敎へてあれど、人から親切を受けよとは決して云つてはない。然るに我々は往々人より愛を受けやうとはして居らぬであらうか。それが爲めにメソ〳〵した弱い人間になつて終う恐れがないであらうか。日本の昔の敎育は、人前で泣くのは恥と考へた位で、泣く時には物置きの隅か、土藏の隅かに隱れて泣いたものでありますが、今日宗敎學校などに居る生徒は、少し淚でも出すと、西洋人がよく背を撫でゝ「可憐さうに可憐さうに」とペットせらるゝ癖が附いて、學校を出て、家庭に這入つても、なほ一寸した事で泣けば人が愛撫してくれるものと考へて居るので、至極不

眞面目である。も少し元氣を出して貰ひ度いと思ふ事が往々ある、自分が人から愛を受けたなら、自分も人に與へやうと務むべきであるが、どうも愛が受身になり、人に愛を施す事を考へぬやうになる。それが爲めに始終不平計りを云つて居つて、信者であつても、少しも信者らしくはなく、温い愛情を以て人の美點を育て上げる事が出來ないのであります。私はどうか日本の武士敎育の廢らぬ内に、その美風をキリスト敎によつて洗禮を施して貰いたいと思ふのであります。日露戰爭當時の事でありますが、高松の師團が戰地に向はうとする時、船がもはや錨を上げやうとする刹那に、腰の曲つた老婆が杖を突いて、息を切つてやつて來た。警官が之れを咎めた處が息子に一言云ひ殘した言葉がある、たつた一言云はして貰ひたいとどうしても聞かない。それでこの老婆が波止場に立つて、息子に向つて、大きな聲を張りあげて云ふには「この年寄りの事を心配して、卑怯な振舞ひをすな。潔く天子様の爲めに死んでくれ。この一言を云ひ殘したから、今云ひに來たのだ」と云つたので、聞いて居る人々は顏を上ぐる事が出來なかつたと云ふ事であります。この精神が日露戰爭に勝たしたのである。この氣性は永久に保つて居りたいもので、愛が受身になる事によつて、惰弱に流れたくないものであります。私共は多くの年寄りの方からも、若い方からも、兩方からよく不足を聞かされますが、之れ等は愛が受身になる處から起る不足ではありますまいか。殊に若い方々に心掛けて戴きたいのは、例へば若夫婦の希望通りに、別居をして居ると致しましても、それで決して親に盡す責任の無くなつたと云ふ譯ではない。また別に居つたからとても親に孝を盡す仕方はいくらでもあるのであります。西洋では餘り孝、孝と云はぬが、それで別居して居る親子の關係が美はしく行はれて居ります。これはクリストの愛より出づる同情心から、年寄りがさぞ淋しからう、少しでも喜ばして上げたいと云ふ心が念頭を去らないので、いろ／＼工夫して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

慰める。年寄り方でも、適に會ふのを無上の樂しみにして居ると云ふ有樣であります、然るに忠孝を基本とする我が國民が別居でもすると、大層親子の間柄の冷たくなるのは何故でありませうか。親を只敬する斗りで、これに愛が加はらぬからであります。クリストの眞の愛が加はりて、神に仕へる如く親に仕へ「われの世に來れるは人の主人とならんが爲めにあらず、人に仕へんが爲めである」と云ふクリストの御精神に從ふ事が眞の孝行であると考へます。

△爽快の感

次には自分の性格が、常に人に爽快を覺えしめて居るか否かと云ふ事を省たい。どういふ人が人に一番愉快を與へるかと云ふに、常に神に感謝して居る人で、かやうな人は春の花か、太陽の光りの如く、實に心地よいものであります。逆境にある人が、なほ神の攝理を信じて、感謝の生涯を送つて居るのは實に美はしいものであり、之に反して何時でも不平を云つて居る人程不愉快な者はない。不平は畢竟利己主義から起るものでかゝる妻君を持つた人は實に家庭の十字架であると思ひます。讃美歌の三百八番を御覽下さい。「くしき主の光、心に充つ」とありますが、英語では "There's sunshine in my soul to-day" とあつて、太陽の光りが今日私の胸の中にある」と云ふので、いかにも痛切に聞えます。また日本の讃美歌で餘程探しましたが、見當りませんが "Scatter sunshine" と云ふ歌がありますから、英語の讀める方には、是非見て戴き度い。これは「世の人が悲しめる時、助けを求むる時は、必ず行きてその人に慰みを與へ、助けを與へよ」と申すのが第一節で、折返しが "Scatter sunshine, scatter sunshine" とすのであります。scatter sunshine とは、太陽の光りを撒き散らせと云ふ意味であります。私は常にこの二つの讃美歌を愛吟して居ります。婦人の使命は實に其處にあり、8 de(爲す事) よりも 8 be (爲る事) にあると考へるので御座います。(文責記者に在り)

家庭

自然と子供

（子女教育に對する母の務）其二十

海老名みや子

わが家の庭

死の手に抑へられて居たかの様な冬枯が、一度心地よい春光をあびますと、忽地光景一變、樹々の小枝はしなやかになつて來まして、雪かとまがふ花も咲けば、紅や薄緑の葉も芽ぐんで參ります。かしこの花壇にいちはやく、赤いつくしんぼうの様にして芽を出すのは芍藥で、其側に恰も竹の子がはへ出す時の様にして出て來るのが百合花であります。紫色の芽を出すのが桔梗で威勢のよい葉が出たかと思ふと、もう赤や黄の花を開くのはプリムローズです。手水鉢の向ふには、可愛い鷺草がいつの間にか咲いて居る。いつもながら堅い鉢前の側の土を排して、元氣よく、何十本、頭を揃へて出て來るのはギボウシで、しかも年々歳々おのが領土を擴めて、其處に權力を張るのであります。其他雪の下、朱蘭、みかへり草、水仙、紫苑、ひあふぎ、をだまき草、鈴桔梗と、幾十種の草花が、獨り手に、あすこゝと出て參りますので、アヽあすこに百合花が、こゝに芍藥がと、朝夕それを發見しては子供等が喜んで居ます。いつかも皆さん方に御吹聽致しましたが、宅の屋敷におはいりになる方は、丸で田舍においでになつたお感じをなさいます。石一つない、殆んど人工を加へない殺風景な庭に、數十本の扁柏の大木を初

として、椿、梅、櫻、茶山花、青木、山吹、丁子、つゝじ、楓などが宛然深山の樣に生茂つてをりますが其中に庭としての風致を害ふのは、中央に、二本の柿の木がそびえて居ることであります。これをきつたならば、幾分庭らしくなるであらうと思ひますけれども、それがまた私共に、樣々の興味を與へて呉れますので、どうしてもきる氣になれませぬ。四月初頃になると、あの不器用な枝がポツ〳〵丸く芽ぐんで參ります。數日立つて段々葉がほごれて參りますと、もう其葉の間だ〳〵に、葉と合色の花が見えだします。毎日〳〵其花をさがして、ア、今年は澤山なつた樣だと家内中で樂しみ初めます。其實が熟するのは十月でありますから、大凡半年の長の月日、風に雨に心づかひもし、樂しみもして、さて愈數百千の實が赤らんで來ました時には、家のものが皆喜んで食べるばかりでなく、おいで下さる方〳〵にすぐおりたつて、長い竿でとつで差上るのであります。大きいのを擇んで、何の惜げもなく澤山にとつておあげ申す其氣持ちのよさ、とても水菓子屋から十、十五と買つておあげ申のと其味に於て、其興味に於て比べものになりませぬ。僅かの庭丈に於てゝも、花の爲に實の爲に如何斗の樂みを得られますか知れませぬが、裹へ廻りますと七八十坪の空地があります。昨今地代値上げを申込まれてをりますので、我々の貧乏暮しで數圓の地代を月々無駄に拂ひますことは贅澤でもあり、困りも致しますので、地主に返して仕舞ふかどうしやうかと、數々話題にのぼるのでありますが、其處には又私共や子供等に樂みや、興味や、思ひ出を與へて呉れる植物が雜居してをりますので、どうしても手放す氣になりませぬマア其二三のおはなしをきいて頂きましやう。先づ數株のお茶は相替らず、阿部老人の手に摘まれ、卵箱の底をぬいてこしらへたじよたんの中でもまれて數斤のお茶が年々出來上ります。次の婦人會には手製の新茶をさし上ることが出來やうかと思つて樂しんでをります。又二十本程の桑がありますが、今は

段々大木になつて、一斗位の養蠶が出來ます。現に數年間洋服箱や菓子箱の中で飼ひました蠶が、昨年は一疋の縮緬となりました。年々とれた繭はみかん箱にいれられまして上州の知人の許に參りますと、先方でもいと興あることに思ひまして製糸にしてためて置いて終に縮緬にして下されたのであります。子供等も又大人も此品物を見ては一層の興味が加はりました。其他覆盆子あり、無花果あり、柿あり、樣々の野菜もありますが、尚一本思出多い山椒の木があります。今より六七年前のことでありますが、御病身な、内ケ崎兄の母君が、ある日二三寸の小さな山椒の芽ばえをお持ちになつて『私が生きてる間にどの位大きくなるか植えておきましやう』といつて畑の隅に手づから植えて下さいましたが、間もなく其植えた主は故人となられましたが、其木は驚くばかり成長いたしまして、昨年などは一升ばかりも果がとれました。木の芽を摘む毎に故人を思ひ出しまして、主人なども内ケ崎君の母君の紀念會でもし度いものだと申された程であります。又皆様御承知のかの「カアヤン」は晩年失明致しましてからは非常に香を好きまして、わけても山椒を喜びましたので、やう／＼芽が出初めますと摘んで先一番に「カアヤン」の處に持つて行つて喜ばせるのが家中のものゝ樂しみでありました。それで此頃其芽が盛んに出て參りましたので、子供等迄が「カアヤンが居なくてつまらないわネへ」と申ます。此樣に、此一本の山椒が家中のものに懷しい思出や、優しい同情心をよび起すことは、どれ程でありましやう。思ひ到れば一本の木が如何に貴く、其自然の力の大なることを思はずには居られませぬ。

常に人事に齷齪して、世の塵にまみれた大人ですら、一度自然の美に接し、其力に觸れましては恍惚として美化され、聖化されるのでありますが、其最自然に近い子供が、其感化を受けることの大なることは今更申迄もないことゝ思ひます。先づ第一に子供は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自然の美

といふものを非常に愛するものであります。生れて幾月かを過しますと、もうものゝ色を見分ける力が出で參ります。赤い色のものでも見せますと眼をはなさず見つめて居ます。少し大きくなると、何より美しい花を好みます。一度手にもつたら容易に放さうと致しませぬ。も少し大きくなると一層花を愛する念が深く且つ綿密になる様でありまして、大人が見てはこんなこつまらない草をと思ふ様なものでも大切に摘みとつて喜びます。宅の長女が四つか五つの頃でありましたが一日小金井につれて參りました。すると初めは白雲につゝまれた様な、満開の櫻花の美に眼をみはつてをりましたが、一度其下に眼をうつして可愛らしいすみれや、木爪が毛氈を敷いた様に咲き亂れて居るのを見出しました時には狂喜して其處を飛び廻り丸で蝶々の様にして花から花を飛んで十余丁の堤を夢中で歩きました。其時私は考へました、子供は何

んといふ美しいものでしやう、全く自然の美の中に子供自身もは入て仕舞つたのだと思はれました。大人がはきすてる處の、落ちた椿やつゝじの花ですら子供は大事に拾つて糸にさして花輪をこしらへたり何かして喜ふではありませぬか。此美を愛すると同時に子供は又

自然の成長發育の力

に非常な興味を有つものであります。種をまき、根を植えて其種が數日の後發芽が致しますと實に大奇跡を見たかの樣に珍らしく、面白く感じます。殊に挿樹をしてそれに根が生じて來ることの如きは實に不思議で、面白くてたまらないのであります。私が九つ位の時であつたと思ひます。山吹の枝を花壇の隅に挿しました處が五六日十日とたつ中に段々葉がのびて元氣よく見えますので、もうきつと根が出來たに違ひないと思つて、ソツト引ぬいてみますとまだ根は出來てをりませぬ。そこで又ソーツト元の穴に

挿込んで、毎日〳〵見てをりますと相變らず青い葉を出して段々成長する樣に見えますので、もう根が出來て居さうなものだと思つて、十日程立つと復ソット引ぬいて見ましたが、やはり出てをりませぬ。やゝ失望して又元の通り挿して置きましたが、三度四度と拔き挿しする間に如何に精の強い山吹でも、とう〳〵往生して仕舞いました。今現に私の子供が此事を繰返すのを見まして、つく〴〵其好奇心の盛んなことを感じました。初めに述べました通り陽春の光を受けて草木が發芽し、花を咲かす樣なことは慥かに子供には大人の推察し能はぬ程の興味と喜びでありまして、何物か大なる能力を感得することが出來るのだと思ひます。次に子供は自然の美を愛し生の力を感ずるばかりでなく、其

自然をよく利用する

といふことに思ひの外深い興味をもつて居るものであります。宅の庭の中央の花壇の廻りに、つくしが

行儀よく生えてをりますので、どうしたのであろうと聞いて見ますと、子供がつくしを根ごとつて來て植えたのださうです。それはそこへつくしを植ゑて置いて、年々そこにつくしが出て來たならば嘸美しからうといふのでなく、花壇に出來たつくしで御馳走をしやうとの考えであります。それを見て私の幼い時のことを思ひ出しますが、何んでも十才位の時であつたと思ひます無理にねだつて座敷の庭の花壇の一つを私の物として貰ひました。そして何を植えたかと申ますと、面白いではありませぬ、いろいろの花もあるのにそれを植えないで、芹をどこからか持つて來て植えました。其時の氣持をおぼへて居りますが、其花壇で見事な芹を作り出して、女中を驚かしてやりましやう。そして其芹が和らかで美味しいといつてお祖母様方が喜こんで下さるでしやうといつた樣な考えで芹を植えたのであります。自然を利用して實用に供すること、子供心に如何に滿足と喜びを得るかゞ分ります。人は萬物の長でありまして、萬物は人の爲に造られたものである。故に人は萬物をいたはり育みまして、それを善用して行くべきものだといふ靈旨によく適合した行爲であると思ひまして、其子供の所行を貴く感じました。

此樣に子供は自然を好み、自然と親しむものでありますが、又實に子供にとつて、自然は最良の友であり、保護者であると思ひます。疳症で、いら〳〵した子供などは、わけても此自然に親ましせなければいけないと思ひます。部屋の中でぐず〳〵したり、じれたりして居る時に、外へ連れだして遊ばせますなれば自ら氣がのんびりとなりまして、從つて身體の發育の上でも非常な力を得ることになります。

更らに自然を愛せしめよ

終りに書添へておき度いことは前に申ました通り、子供自身生れながらにして自然に對する相當の心得はもつて居る樣でありますが、一面又甚だ不完全なものがありまして、子供の質によつては、殆ど殘酷

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

な所作を爲すことがあります、例へば、美事に咲いた花を惜げもなく折りとつて、其花をむしや〳〵むしりとつたり、折角和らい芽を出した處をひつこぬいて捨てたり、つまらないいたづらをして嬉しがつて居ることがあります。かゝることを子供の戯として平氣で、観過しにすることは大變よくないことだと思ひます。不思議に此性格は、我々日本人の中に子供にかぎらず、大人の中にも、しば〳〵見受けることがありますが、所謂無益の殺生で、只つまらない行爲といふばかりでなく、人間として自然に對して、すまない仕打であると思ひます。此事に付ては次號動物に對する心得に對して倘委敷申て見度いと思つてをりますが無心の草木にも與ふ限り人間の情けの露を注ぐ様にあり度いものであります。萬一こんな行爲を見出しましたならば、其心得の間違つたことをよく〳〵敎へまして其癖を直すことをつとめてやらねばなりませぬ。そうしませぬと段々それが増長して、おもひやりのない、殘酷な性格の人間となる恐があると思ひます。

皆様の御宅にはどんなにお狹まくも五坪や十坪のお庭はおありになることゝ思ひますが、どうか其お庭をお子様方のパラダイスとしてお上げ下さる様願ひ度ものであります。手のひらの様な庭でどうにも仕方がないとよくうがゝひますが、子供は小さな箱庭一つをも樂しむではありませぬか。やりやうによりましては猫のひたいの様な庭で思ひに勝る興をとることが出來やうと思ひます。そしてたしかに子供の爲に貴い自然の氣に觸れしめる處の樂園であることを信じます。

野薔薇

野薔薇の匂ふ曲り角。

村であつたのが先頃町になつた程、急激に開けて市内の場末よりは、反つて、繁盛する新開の田舍町は、都らしい姿の中にやはり田園の趣をも含んで居る。もし此處に住むならば、市に足を入れずとも都の様も覗ひ得られやう、都育ちの人は野の匂ひの懐しさも覺ゆるであらう、其の鄙と都の分れ路の野薔薇て匂ふ曲り角……………………

和子

土のない土地で子供のした園藝

これは私の友が或年語られた話でありますが、海老名夫人の「子供と自然」を見るにつけ思ひ出すまゝに、繁華な土地に住んで居らるゝ方の幾分の御參考にもならうかと掲げました（編者）

私の家は〇〇〇市の目貫の場所、東都で云はゞ日本橋と云つた樣な所にある。故に極々手狹て庭は少しもない、座敷の北に半坪程の空地があるが、其の上に二階の廊下が一寸露臺と云つた風に突出て居るから、此の土地には露霜の恩威も及ばぬのみならず隣りとの界の高塀に遮られて、日光を見る事すら許されない。されば假令何かの拍子で雜草の種が一つ零れたにせよ、空しく木乃伊になる計りて、云はゞ此の半坪は人爲の小沙漠である。前には父が緣日などで鉢植を求めて來たが、何れも此の沙漠には堪らぬと見え、三日程すると申し合せた樣に萎れ始める尤も灌水を怠ける罪もあらうけれど。で、近頃は反つて可哀相だからと鉢植を置く事も止めて仕舞つた土のない土地で園藝は出來ぬものと皆斷念めて居た此の沙漠の人家、私は暑中休暇になつたので飛んで歸つた。沙漠の家でも父母と幼い弟妹の待つてるのがあれば充分である。歸つて見たら驚く可し、沙漠の家には二十三鉢の朝顏、夫れも造花ではない、毎朝々々美しい花を着けるのがあつた。そして此朝顏は全く十二歲の弟と十歲の妹の苦心に依て其の生命の發達を遂げたといふ事實は、更に私の感興を引いた。夫で此の事實を御知らせ仕樣と思ひ立つた譯である。

その年の春弟は、前年お友達に貰つた朝顏の種子を本箱の引出しから探し出して、何時蒔かうかと家中の皆に聞いた。誰れも知らなかつたが、弟は雜誌で調べて八十八夜に蒔いた、沙漠にではない、水盤の中へ三町程なる川堀の傍の土を風呂敷へ包んで自分で運んだのを入れ、之れに蒔いて日光の惠が多い物干へ置いたと云ふ。暫らくして嫩芽は殼を破つて

出た。狭い水盤の中へ袋にあり丈の種子を蒔いた事とて、丁度朝顔の林が出來た。妹に夫れを見せて、二人は物干の上で雀躍して喜んだ。バケットへ水を入れて二人で物干へ運んだ。恐るべき生命の力を以て朝顔の林は互に身動きもならぬ程に成長した。所がある夜、狂風あり、翌朝生命の芽は大抵折れ伏して居た。弟は泣き乍ら學校へ行つた。お友達に敎はつたとあつて、歸ると早々素燒の鉢を買ひ、僅に殘れる芽生を之れに分植した。どうせ枯るものとして誰れも大人は顧みなかつた。弟と妹は一生懸命である。毎朝三十近くの鉢を七時の昇校時間前に二階の露臺に並べ、夜は風を恐れて沙漠に降し、水は朝夕二回、時々油糟を遣つた。末の赤ン坊に大切の嫩芽を摘まれた事があつた。兒猫が蔓に戯れて鉢を覆した事があつた。那麽這麽で鉢の數は段々減つたが、夫れでも二人の苦心に依て沙漠の住人は、植物の生命の發展を日々目の前に見る事が出來た。二人は益々乗り氣になつた。夏が來た。花は咲いた。但し蔓計り延びて頗る滑稽なのもあるが、弟と妹は大滿足で、毎朝早く起きては平凡な花を飽かず眺めて品評をするお客さへあれば、弟と妹は吃度朝顔を見せずには返へさない、兩親も笑つて夫れを止めない。

　私は小供が自然に與へられた活力と智惠の計り難さを空恐しく思つた。

新刊紹介

◉理想の生活（靜子の卷）　羽仁もと子著

聰明なる寡婦の膝下にありて最善なる敎養を受けたる、靜子云へるクリスチャンレデーが、嫁がんとする前夜の母の敎訓に筆を起し其新家庭を中心として、いろ／＼の婦人の樣々の境遇を小説體に記したるもの即ち此書也。知らぬ間の働き、忍耐の日、月下の清話、さま／＼の望み等よくも斯く細かく、美はしく書かれたるものかなと思はしむ。其着意優麗なる筆致は單に文學としても上乘なるもの、况して其間著者の理想は高く掲げられ讀者をして知らず／＼向上の一路を辿らしむるものあるに於てをや。婦人の讀み物として一頭地をぬく。體裁又優美なり。新婚の家庭に贈るも妙なるべし。（寫）

（定價六十錢　東京小石川婦人の友社）

わが母

身に泌みた親の躾け　其の三

矢島揖子

刀自の母君はまた德富一敬氏夫人（蘇峰、蘆花兩氏の母君）、及横井小楠氏夫人（老海名夫人の母君）の母君で、また八十幾歳迄熊本女學校の校長をせられ、數年前逝かれたる竹崎順子刀自の同じく母上で、かやうにその子孫に多くの名流を出して居られます。

△凡てが實物敎授

私が八十幾歳の今日でも、母の俤、遺訓はまだはつきりと心に刻まれて居ります。勿論昔の事ですから女はいろはさへ心得て居ればよい、それで親、兄弟に會はれない時は、思ひの儘をいろはで書いて用を運せばよいといふ時代に育つたわが母の事で御座いますから、勿論敎育のあらう筈はありませぬ。それで「躾方」といふ唯一卷の書物を習つてお嫁に行つたのですが、私の母はその「躾方」をよく會得した人であります。また和歌が好きで、百人一首の妙味をよく味つた人で、八人の子女を敎養した、ひま／＼になほ歌を讀むといふ餘裕があつた斗りでなく、子供に一人／＼に百人一首を立派に書いて一卷宛殘してくれました。

母は凡てが實物敎授で、子供にさせたいと思ふものは、自分が先づ爲て見せたのです。それ故隨分と忙しい中に書いてくれた一卷の百人一首にもいろいろの意味が籠つて居つたのです。私は先づこれをお手本として字を習ひました。そして寒中の勿論火の氣などない部屋で、机に向つては、このお手本を久しい間眺めて見ました。それは私が横着ですから、手が冷えて居る間はこうして不斷書いては見るがどうも母のかいたやうにのんびりと行かない、のんびり書かうとすると、大層大きな字になる。母のやうに小さく書いてものんびりと行くのは何處に秘訣があるかと頻りに見物して居たものです。それでも父の處にお淸書を持つて行くと、考へた丈けに外の兄弟よりも私のが一番よい、それでもまた母のやうに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

行かないとて、父に前の事を話すと、さう理論斗りで行くものではない、澤山書いて鍛錬するがよいと言れました。母は兄と妹と三人の兄弟でありましたさうで、その兄と申すは書家で、また繪畫のたしなみもありました。母も家にあつた頃は繪畫もやつたやうですが、或時兄さんから「いくら上手でも女の書のた繪は分る」と云はれたので、繪の方は思ひ切つて、一切致しませんでしたが、それでも四君子位は書きました。もし晩年迄續けたら、或は字のやうな程度の文人畫がかけたかも知れません。

△生活の節制

嫁に行つてからは、八人の子女が次次に出來ました上に、交際の廣い家でしたから、それはどうもよく働らきました。子供の世話と云つても、その頃の事ですから、裁縫、洗濯どころではなく、織からこしらへあげて、足袋迄も母の手で作らなければなりません。それでとう／＼身體を費ひくづして割合に早死を致しました。たしか五十六でありました。然し私は今八十一、徳富は八十三四、竹崎も八十二迄生きました。その丈夫の身體は全く母の丹精です。母の始終申した言葉に、人間は食べそこなひはあるが食べない傷ひはないと云つて、大層飲食に注意させました。夏向は決して井戸の水を飲ませられなかつた。井戸の水には混り物があるからとて、その頃から冷し水を拵らへてありましたし、また食べないそこないはないと云ふので、食事を節制しましたから水を飲み度くもない。それで八人の兄弟が一人として胃腸を患つた事はない。遂先日も私の處にマッサージをする人が來て、私の腹部を見て、こんな丈夫な腸胃を持つて居る人は恐らくは男にもあるまい、これでは病氣もない筈だと申しましたが、かうやつて今日迄丈夫に働らいて居られるのは全く母のお蔭だとつく／＼有難く思ふのです。一心はおそろしいもので衛生學も育兒法も聞いた事のない人がちやんと天理に叶つたことを行つて居るのです。

また母は蠶をどうも澤山に養ひました。死んだ後に白髪の糸が長持一パイにありましたが、それで食物と同じて私達にはよい着物など一度も着せたことはありません。皆節糸で織つたの計りを着て、帯等もその頃は厚板か博多のやうな帯物の帯をしめなければ、お嬢樣ではなかつたのですが、私共はいつも母の手織の柔かい染模樣の帯ばかりしめて居りました。

△家庭の清潔

私の家は肥後の代官をつとめて居りましたが、肥後の代官は餘り大したものではありませんでしたがそれでも今日の知事と申す位のもので、堤防溝渠と申して始終人民保護のこと斗りを考へて居りましたそして母の實家も同じく大官であつたのです。かやうに祖先の遺傳もありませうが、母も何んでもよい事は自分が先づ行つて、人にもさせるといふ風でした。さういふ風を見なれ聞なれた私は長崎から種痘が入つて來た時、丁度十六でしたが、自分が先づ一番先きに試して人にもさせやうと思つて最先きに之れを試みたのが私でした。然しその時五十六十の人はつくのに私にはちつともつかない。私の血精は餘程強いと見えて天然痘もはしかもしないのです。然しこれは全く母が衛生に注意した斗りでない、家中節制を重んじたので、酒も煙草も害になるものは一つも家に入れなかつたので、餘程私共の血精が丈夫なのであらうと思ひます。この間大阪に參つた時、石神氏の血精研究所を見せて貰ひましたが、どうも面白いものです。健全な血精と、病のある血精とを一所に入れて置くと病のある血精は健全な血精に餌み盡されて終うと云ふのです。それ故健全な血精を持つて居る人は勢ひ社會に勝ちを占めて行くといふ事になりませう。

文苑

春

紫嵐

四月五日

「箱根八里を足で越えて、三島の富士の姿を見よう」と相談一決したのは一昨日買物の歸り途、小さい袋一つゞゝ下げて友と二人フラリと校門を出たのは七時半、花のお江戸は花曇りドンヨリした朝であつた御寢坊な友の兄様の御蔭樣で八時の汽車が一歩御先とも云はずにポーと御出かけになつてしまつたので十一時迄入り代り〳〵過ぎてゆく種々雜多な人間を拜見して居た。

國府津行に乘る。大船でお辨當を食べて國府津に着くと直に電車に乘つて湯本へと出かけた。此電車はいやに修養が積んでゐて落付て居ること甚しい。チン〳〵とそれでも電車らしい音はさせるけれども決して走りなどはせぬ、ソロリ〳〵と參らうかといふ工合だ、お江戸の人力の方がよつ程速い。

湯本に着く頃からだん〳〵空模樣が怪しくなつて來て魂膽ありさうな風がヒユーッと吹いて來て油氣のない髪をバラ〳〵にしてゆく。湯本で鎌倉屋といふのに休んで山の樣子を聞いて見ると、仔細氣に空を眺めて

「お山はシケでござんせう」

といふ。

「どうだ、それでも行くか」

と御兄上樣

「いゝわ、出かけませうよ！」
と。稍自棄氣味の二人。ビリーと裂いた赤い布で草履を足に結び付け。下駄は腰に、羽織は細長くして背に、とそれ／＼甲斐／＼しく裝うて、出かけた。
「天吾に辛かれば辛かれ」なんどゝ雲行いよ／＼怪しくなつてゆく空を睨み上げながら、元氣よく登り初めたのはよかつたが覺悟の上とはいへ、未だ半里も行かぬうちに「狼狽てるナ」と云はぬばかりボツリ／＼と大粒の雨「生意氣ナ」と威嚇する樣に風がヒユツーと枝を鳴す。鎌倉屋と一尺四方位の大さに書いた番傘を兩手に抱へて登つてゆく吾姿を我ながら可愛想にも思つた。暫くして雨の音がしなくなつたので見ると雨は何時の間にか止んで彼方の山に美しく日がさして峰の方から流れ落つる清水がまるで銀の線の亂れ落つる樣に見える。
「アラ晴れたわ」
「奇麗ね」
と見合す笑の消えぬ間に山も谷も一面薄霞で被はれて音もなしに夢の樣な雨が降つて來る。二人は一つ傘に身を寄せてヒタ／＼と濕ぼい道を急ぐ、いつか二人とも片袖づゝシツクリとぬれて、草履の赤いヒモが足袋にしみ出す。枝から枝へと紛れ廻る風の音と下へ／＼と亂れ散る水の音が絕え間なく或時は物凄い響になり又或時は優しい調になつて丁度山の精を表はして居る樣に思はれる。傘を傾げて先を見ると霧の木の間にお駕籠が見えかくれ、遠くのは繪の樣で近くのは物語りめいてゐる。
宮の下とかいふ所に來た頃は雨も風も非常に烈しくなつて一つの傘に四つの袂の凌ぎ樣がなくなつたので、村の入り口の荒物店に飛び込んで莚を二枚買つて、それ／＼仰々しく身を堅めて、どんな雨でも「サア來い」とばかり外へ出て見ると、これは如何な事雨はカラリと晴れて、お天陽樣がニヤ／＼と奇妙な三つの影坊師を地上に寫した。調子ぬけがする事夥しい。それに此村はゴテ／＼、某ホテル、某樓などといふ温泉場が多いだけに人通りが繁げしく、一々

色々な目で見返り見送られるので、なんだか、さん〴〵人に弄ばれてゐる樣な氣がして妙にイラ〳〵する、通り拔けてホッと息をついた。細い急な坂道をドッコイショ〳〵と掛聲をしながら登つてゆくと、突然ワン〳〵と嚙み付く樣に吠えられたのには少なからず仰天して、見ると聲は犬一匹並に大きいが、いたつて小さい犬が本職面して吠えながら追ひかけて來る、お役目御苦勞だが、ちとお目識ちがいお菰を着たからつてさう馬鹿にされては困る。

急に堂々と勇ましい水の音がすると思ふと巾二間許の谷川へ出た、山の心臟から湧いて出て來た樣な清水が大きな石に當つては白く碎けて、新い山の力をみなきらして走つて行くその中を岩石づたいに渡つてゆく心地よさ。見渡す限りの深い〳〵森の綠が雨に洗はれ霧に拭はれて其色の鮮かさ。沈んだ無言の中に新い命が香つて居る、私の若い血は其新しい氣に觸れぬわけには行かなかつた。

松林の中で鎌倉屋の本店の松坂屋から來たといふ迎の男に遇つた、自分は其男を一目見るとすぐ山の人といふ感が起つた。活々とした深綠の中を何處までも丈夫さうな山の人に導かれてゆく。空が暗くなつたと思ふ間もなく夕立の樣な雨が音荒らゝかにやつて來たので菰にすつかりくるまつて行くこと十數町。

「これからがちと難所で」

といふ山の人の聲も絕え〳〵。此難所は七曲とやら成程すねて曲つた樣な谷際の細道。

「谷を見下すと山に醉ふぞ」

との兄の人の注意に從順なしく泥まみれの足ばかり見つめて「辷るまいぞ〳〵」とねんじながらゆく。曲り角に來る每に闇打式の風が打つけるので傘がメリ〳〵と裂ける、其柏子に足下がフラリとする、もう一足で支那人なら千仭の谷とでもいひさうな谷にまだ御若いのに勿體なくも死んでしまはなければならぬ、實は串談ではなくやつと兩足で踏止つた時は破れ傘の雫か汗が冷いものが背を流れたのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山の人は流石に雨風には懇意と見えて平氣の平左で角へ來る度に力强さうな手を出して導いて呉れる。やつと難所を越えて數町ゆくと先に立つてゐた友がピタリと立留つた。目を上げるとボーッと濃い霧の中に一面夢の樣な蘆の茂つてゐる小さい沼が薄墨の畫の樣に顯はれた。蘆の湯に着いたのは六時赤い燈が窓からもれる頃であつた。この一異樣な濡鼠が立派な玄關に飛び込んで、

「さぞ〳〵」「これは〳〵」

など〻盛に迎へられるので西洋館のカーテンの間や障紙の隙間などから驚いた顏や不審怪氣な顏がチラ〳〵見えた。兎も角も一風呂とさつぱりさした浴衣を引掛けて呉れた女中に導かれて湯殿に行く。ガラッと戸を開けるとムッと湯の香がする。同時に身體の筋が緩んで來た樣に思はれたガラス越に中を窺くと湯槽の中におぼろに若い女の首が一つ見える。然し生え出した樣にちつとも動かぬ。自分等も動かぬ女の手前音を立てぬ樣に御湯を使つて入る。三つの首は思ひ〳〵の方を向いてうごかない、まるで湯槽の中に浮いて居る樣だ、暫時シーンとして何音もしなかつたが突然隣の男湯から濁つた太い聲が湯氣でふくらんでゐる空氣を振せて響いて來た。耳をすますと。

「有明のともす油は菜なり、蝶が焦れて逢に來るもとをたゞせば深い仲、死ぬる覺悟で來るわいな……………」

終を長くひつぱつて居たがザーッといふ水の音と一緒に消えてしまつた。

夢から覺めた樣な氣持で部屋に歸へると最早夕餐が備へられてあつた。艶のい〻頰をランプに照らして三人が食前の感謝を捧げた時純粹な一色の感謝の念が胸にあふれて來た。

「なんでも、おいしいことね、みんな、美しい血になる樣な氣がするわ」

「御山の味がするわね」。

食後疲れた身を休めながら今日一日の旅の樣を、あ

れこれと、冷汗を流した樣な苦しかつた事も今は可笑しい思ひ出となり

「あの時の憐れな顔つたちなつかたわ」

と云へば

「アラ　あなたこそ私の顔よりもつと憐れさうだつてよ」

と云ひ返すのを

「二人とも、何しろ二度と見られた樣ぢやながたせ！」

と兄の人に心から呆れはてた樣に云ひ放されて二人とも「フ、」と笑つて

「いゝわ……………ねえ—」

と忽ち仲なほり同盟してしまふ。

夜が更けてから床に入る前、もう一風呂と手拭をさげて友と二人、人影のない廊下を足音忍びやかに傳つてゆく。人の居ない湯槽は鏡の樣に平である。

「入るのが惜しい樣ね」

と湯槽の側にたゝづむ二人の影がボーッと湯鏡の中に浮いて來た、

「オヤッ、月よ！」

と窓を開くと冷い風と一緒に流れこんだ月の光、二人も云ひ合した樣に湯槽に下りた、湯槽はしばし月の色であふれたがやがて元の鏡に返ると月は友の胸と我が胸の中に浮ぶ、二人は昵としてつく息にも碎けさうな月を無言で抱いてゐた。

「次の日」

覺の聲で目が覺めて緣に出て戶を開くと霧で山も木も家も皆世一つ隔てた樣に見える。朝食をすます頃細い雨が降つて來たが

「昨日の事を思へばこれ位の雨」

と二人が大した勢なのでまた昨日の奇妙な姿に立返つて「お大切に〳〵」「御氣嫌よう」

と宿の女將や女に見送られて深い霧の中に進み入つた、雨が止むと日がさす、日がさすと黃金まじりの霧が舞ふて來る奇麗と思ふ間もなく細い糸の樣な雨になつて世界を夢よりも淡い色にしてしまふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「これが五郎十郎の墓ですよ」と兄の人が杖でコツンと石碑を叩いていふ、自分は學校の活人畫でよく御目にかゝつた兄弟の石の墓の前に正しく立留つてつく〴〵と見た。自分の今生きて居る同じ此世界は、曾て同じく生きて居た二人の男として考へようとしたが、自分の見た本と畫の中から、どうしても此兄弟はぬけ出して來なかつた、始つから紙の上にかゝれた人としか思へなかつたのである。

霧がたん〴〵薄くなつた頃三人は青く平かな蘆の湖を見下す小山の上に立つて暫時無言、動かぬ湖の水を眺めてゐた時自分は碧い冷い湖水の水が靜に我胸の奧深く流れ込む樣に感じて音なき其流の行方を悲しく追ふのであつた「霧に包まれて居るあの森の中に湖上の美人(Lady of the lake)でも居さうね」二人はウツトリとして眺め入つた。大海が英雄に調和して居る樣に實に湖水は美人に調和してゐる

「煙霞で湖上の美人でもあるまいせ」と云はれて見ると成程自分の樣子は見えないけれども友の姿の可笑さに笑へば友は我姿を見送つて笑ふ

少し廻り道をして箱根權現にゆく。

「此處等が頼朝が政子を引張つて歩いた所ですよ」と杉の木深き石段を登り〳〵兄の人が說明し給ふ。

中段で足を止めて湖上を見ると今しも彼方の岸のホテルとでも云ひさうな洋風の家から一艘のボートが下されて、空色の服を着た婦人が夫らしき人と共に舟を浮べようとしてゐる自分はフト男髷に結んでゐる頼朝の傍に打掛を着て「我君樣」とでも云つた樣に思はれる政子を思ひ浮べ共に艫を握つて湖上に春を歌ふ西洋人を引くらべて、又これから後どんな人が此湖上に其影を寫す事かと思へば今更の樣に「さても〳〵面白い世の移り變りである」と感じた。

都の友に送らうと思つて一番大きい杉の木から、美しい苔を少しとつて懷紙の中に挾むと、かすかに苔の香がする、何んだか自分が急に古くなつた樣な氣がして、面白かつた。

「もとはこね」といふ所で晝食をすましてから淋しい落付いた松並木の中を辿り〳〵振り返つては碧い湖水の色をうれしがりながら山道を上つたり下つたり

「もう下り坂ばかり」

と云はれた小岡の上に立つて緑の山々に抱かれて眠つてゐる様な蘆の湖に惜しき別を告げた、私は再び此湖水に對して立つ事がない様な氣がする然し一度音なく我胸に流れこんだ靜かな水は永久に渇る事がないと思ふ。いく度か雨に降られいく度か照らされて三島に着いたのはチラホラ燈のつく頃八幡の櫻が夕闇に白く美しかつた。

☆　☆　☆　☆　☆

こんな春もあつた、片付物の最中フト目に入つた古い日記を、花が吹雪の様に散り込む緣端に腰かけて一息に讀み返した自分の丸髷の影坊師を今更をかしく思はれたのである。

榛名みち

野口せい子

春はよし友よし旅のうれしきを思ひもよらず
榛名路にする

○

うれしさはゆめに似て行く伊香保路や四月の
旅を君にめされて

○

伊香保なる千明のやかたほとときす波子の室
に二夜寢て見し

○

山の火が御空の星か海に似し霞の奥にうかぶ
光よ

○

鳩の目や乳のかほりにたくへまし木の芽木の
芽のわかき姿よ

○

見かへればふもとの谷に雲ぞわく太古の様に
世のしづかなり

榛名路や廣野のあたり馬の背にものゝたうべつゝ行く男あり

○

山の湖蜆の料理口によしゆめに似てきく小波の音

○

春いまだ雪をのこせり榛名路や越後より吹く風のつめたさ

○

水姫はいまだ目さめず山の湖の春なほあさく色のくろめる

○

蝶となり白雲とべば花となり心にほへり春の大空(以下野にてうたへる)

○

地はひろし大空高し白雲にのせてや、やらん我春のゆめ

○

風寒し日照れて越の山なみは雲母と光る大利根の春

○

いざや來よ共にうたはん天地は春の光りに舞へるならずや

○

皿に似てあさき心よ思ふこと涙となりて今日もあふるゝ

五月雨

野人

五月雨や防風林を打つ音のはげしうなりぬ獨居の宿

○

雲走る飛彈になりたり峠路を小間物賣りの影小さうなる

○

初夏や南國夢むまなさしの美女は一きわ目さましきかな

○

川越えて相摸に入るや摘みためし花の名聞かで國へだゝりぬ

○

街道の土古りたれば草もなくて機織唄もしわがれて聞く

壊れた器

野菊

咯血！何と云ふ慘ましい響を私の胸に傳へたでせう。多年螢雪の功空しからず、今や業を卒へて社會の大海に船出し樣とする有爲の青年は、終に病魔の捕虜となりました、洋々たる大海に臨んだ樣な前途は此まゝ沒し去られるのではないでせうか――？私は凛々しい運動服に身をかためて、此土地の行事の一つに數へられる程盛大な運動會の總指揮をした思慮ありそうな勇ましい青年を思ひ浮べました。曾て大寺の佛前に校友相集りて追吊會を催した時友の靈前に熱誠こもれる吊詞を捧げた温厚さうな學生もかの青年でした。思へば思ふほど悲慘の感にうたれざるを得ませぬ。私はふと三年前の或日を思ひ出しました。それは陰しとしとと小止みもなく降る雨の一日、郵便！と投げて行つた手紙の中に咯血の字を見出した時の事です。其の時の感じは何時まで經つても忘れられはしませぬ、岸を離れて行く船が遠くなればなる程燈臺の灯を明かに見得る樣に、時が經てばたつ程當時の感じが明かに思ひ出されるのです當時私はさして驚きもしませんでした。恰もまち設けて居た事がそのまゝ實現せられた樣な感じがするのでした。それでも何と云ふ事なしに涙はとめどもなく流れて來て、友が手ずさびの琴の音が云ひしらぬ悲痛の感を起させるので、私は家の中にぢつとして居るに忍びず其まゝとび出しました、なま暖い空氣におさへつけられる樣な中を、何處をどう歩いたかは覺えて居りません、實際、若い望みに充ちた胸を抱いて夢の樣に華やかな卒業式をすませて來た許りの私には、餘りに大きい打擊だつたのです、今でも時々うそではないかと云つた樣な感じがいたします。それから今日迄の間には隨分曲折がありました幾多の障碍は行く道をふさぎ、諸種の迫害は私の身邊をとりまきました、それでも私の行く道は一つより外になかつたのです。悲想の胸を抱いて人知れず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

泣く事は幾度もありました、只祈りによつて慰められもし勵まされもして來たのです。壊れた器の爲に春秋に富んだ其生涯を埋めて了ふのは可哀相だ、我を捨てゝ走れとは幾度云ひきかされた言葉でせう。けれども崩れよ〱と叫びつゝいざ崩れて見ればあつ！と氣のつくのが丈夫の常ではないでせうか……私は壊れた器でもよい、かたく護つて大事に秘藏して居たいのです、たとへ人間の力でどうとも出來ない壊れたかけらでも神様は御心に適はゞきつともとの樣につぎ合せて下さると私は信じて居ます。もしつぎ合せて頂く事が出來なければこの壊れた器を抱いたまゝ神の召をうけて天に昇りたい之れが私の願ひなのです。

過去三年間の出來事は斯うして次から次へ思ひ出されて止めどもなく辿つて行きます。その思ひは最後に又かの青年の上におちました。今自分が抱いて居る壊れた器がつぎ合せられる事を信ずる私は、かの青年もまた船の修繕をなし得て世の海にのり出すよき航海者となり得る事を信ぜざるを得ませぬ。かくて悲痛の感にうたれた私の胸は今全く平安にかへりました。（三月二十三日記）

植物日記

某高等女學校一年生

○パンゼ　九月七日下種　十二月二十二日移植

△十二月二十三日　ぬるま水をやる。△同三十日　少し葉がちゞむ△一月二日　土濕り過ぎたれば水をやらず。△同四日　芽出づ。△同九日　餘り寒ければ晝は火鉢のそばに置き夜は本箱の中に入れておきますが、少しものびません。△同十八日一葉が出ました。△同二十三日　夜本箱に入れて置くのを忘れましたので、折角葉が出たのを鼠に食はれました。

△一月二十五日　新らしきパンゼを又植ゑました。△同三十一日　芽が出ました。△二月三日　どうしたのですか、だん〱力がなくなつてきました。△同六日　大變寒さが強いので、元氣がなく、少しも育ちませんから、温室を造りました。温室は高さ五寸の蜜柑の空箱を斜めに切り、切り終りの所を四五分高くして、其所にガラスの落ちぬやうに支へ、ガラスは箱に合はせて切らせました。夜になりますと、上にわらをかぶせて、其の上に又箱でふたをする樣にしてあります。△二月十九日　芽が出ました。△同二十三日　小さき葉ができました。△三月一日　餘り水をやり過ぎると育たぬと思ひ、少しの內水をやらないで居りましたら、下の方の葉が少しかれました。△四月九日　芽が出ました。毎日ぬる湯をやりますが、土が濕り過ぎて居つたり、雨天の爲めに水をやらぬ日が十日計りありました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

随感

女子教育を堀抜き井戸の深さに

婦人の教育をそんな大學時代の昔に返へせといふ人があるが、私はまだ〳〵賢妻良母の程度が淺いからいけないのだと思ひます。これをずつと深くして堀抜き井戸のやうに汲めども盡きせぬ深さにすると何も古い人も新らしい人もない。皆よく調和して行く事が出來るのです。日本の現今のやうな貧乏國で別居するなどは不經濟極まる事で、何もお婆さんも孫も一緒の家族的生活が出來ない筈はないのです。

それには婦人から根本に達する迄もつと益々深くなるやうに、教育せられる事が大切であらうと思ひます

（矢島揖子）

之れも亦一の德

人の迷惑には種々あります。直接に害を與へる事は勿論でありますが、中には厚意と思つてする事が却つて先方の迷惑となる事があります。例へば無闇に物を貰ふ事の大嫌の人に、强て贈物をしても、其人は難有いと思ふどころか、却つて不快に感じませう。無意味に其名を書き立てらるゝ事を好まぬ人を賞め立てゝも、其人は喜ぶよりも寧ろ心苦しく思ひませう。己れの欲する所を人に施したり、欲せざる所を施さぬだけではまだ足らぬ、他人の好むところや好まざるところを能く知つて、之れに逆はぬやうにする事も亦他人に對する德の一つでありませう。

場合を見るのも大事の注意

公の席で私の事を後廻しにするのは、一の作法であります。既に講演が初つて居るのに、知人に縷々と挨拶をして居たり、役員が會員の着席を待つて居

るのに、友達と立話をして居たりするのは、婦人の會合には常に見る例でありますが、先多數の便宜を考へ、自分の都合は緩々と後で圖るといふやうな習慣をつけるのは大切な事であると思ひます。

（安井哲子）

縁の下の力持

割の惡い仕事、卽ち折角爲ても其程人目に立たない事をよく縁の下の力持とか、縁の中の舞とか申します。元來舞とか、力持の藝當とかいふものは、人に見せるためのものですから、誰れにも見えない縁の下などに這入て爲る程、馬鹿氣た事はありますまい。處が茲に一つ誠に大切な縁の下の力持があります。其は他のものではありません、家の土臺であります。假令豚小屋一つ作るにもそれ相應の土臺が要りませう。まして大厦高樓を建築しやうと思へば、先づ其に適ふ土臺を造らなければなりません。此土臺は是非とも無くてならぬ貴いもので、壁が少し落ちた所で、屋根がめくれた處で、直に倒れるには及びませんが、若し土臺に少しでも故障が出來たとすれば、一刻も捨て置く事は出來ません。この樣に家屋に對して土臺は最も大切なものであります。人の行爲に於ても、この土臺の樣に一向に人目にはつかず、又誰も賞めても吳れなければ、悅んでもくれないけれども、其實他人の爲め、又廣くは世の中のために非常に有益な仕事があります。事業などゝ名づける程の事でなく、日常家の內外に起る極く些末なやうな事でも、全力を注いて致しまして、キリストの仰せられました右の手の爲す事を、左の手に知らしむる勿れ主義で、一家のため、又他人の爲め、幾分己を犧牲にすることは、殊に婦人に取りては辭すべからざる事と思ひます。

全體婦人の仕事は重もに家の中に在るもので、男子の樣に社會に出て一花咲かせるといふ事はむづかしく、所謂縁の下の力持的仕事が多うございますがこの力持は意味のある誠に貴い仕事で、丁度家屋の

土臺の樣なものでございませう。或はこれを樹木に譬ふれば、靜かに土中に隱れて居て、而も絶えず養分を吸收して樹全體に送つて居る根の樣なものでせう。今頃の樣な春の時候になりませば、申合せたやうに萬花咲き亂れて、色香を競うて居りますが、若し其根を斷んか、忽ち枯れて終う事は必然でございませう。婦人は家庭の丈夫な根となつて、花たり、實たる夫や子女の出精を圖らねばなりますまい。又立派な建物を支へるところの土臺の役をつとめねばなりますまい。

社會に名の著れておいで遊す御婦人方は、多くはお若い時に御良人を失はれたが、さなくは未婚の御方である處から考へても夫を助け、又立派に子女を敎育して間接に世の中に良い働らきを遺し、而も其名を夫の蔭に隱くして世を去られた婦人は此れまでに幾人あつたらうと思ひまして、何やら慕はしいやうな、嬉しいやうな感がいたします。私共も一大奮發と努力とを以て、一家の土臺たる任を自ら負ひたいものと存じます。

（元良よね子）

敎會は病院

敎會を聖者の集りと思ふは間違ひである。敎會は病人の集り、院長樣もどうやらあやしいのである。然し敎會以外の人は自分の病氣に氣付かぬ病人である。自分の病氣を知つて、その治療を乞はうと病院にある人は、いつか全快の見込みがあるが、自分の病氣を氣付かずに平氣で暮して居る者は、早晩その爲めに命を奪はれざるを得ないのである。

（宮川經輝）

母たらんとする心

もし婦人に母となるといふ恩惠がなかつたら、此の世には美はしい完全な献身の情操は絶えたかも知れません。母となつて知る樣な情操を、他の事により知る事は出來なくはないが難い事と思ひます。女にさま〳〵な不利益が與へられても、母となる恩惠

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は優につくのつて餘りある事と思ひます。苦しい底に甘さはありながら、苦い苦い人生の盃、それを手にしてなほ悔いぬ程に母といふものゝ心は純に美はしいものだらうと思はれます。

當地には外科醫ならば三四里もある所に實力ある醫師あり。されど內科の醫師は頗る不安心の方なりまして婦人科、小兒科の醫師をや、そんなものはなきなり。されど婦人も小兒も病氣はするなり。それを思へば時に心細き感なき能はず。されど人はその境遇に於てなし得る最善をするのみ。その以上を思ひ煩ふとも誰れか命を寸陰も延べ得んやと二千年の昔人は敎へられ候。思ひ煩ふには限りなし、されどダビデの村の馬槽の中にてだに、身も心も健かに育ひ立ちたる初兒もありしを、小兒科の名醫ある所によき助產婦ある地にて、不健全なる父母の遺傳を受けて生れんよりも、馬槽の中にてだに健かなる誠實なる父と母の子と生るゝには如何斗り幸福ならん。左樣考へ候へば何の憂ひもなし、野の百合は如何にして育つかを思へとよ、人は肥料を與へ得、蒔く事を得、されど日光と露の惠みは神によらんのみに候べし。至らぬ身にして母たらんとする若き女は、野の百合は如何にして育つかを思ひて獨り涙する事を覺え候。されど至らざるもの、我れ等は至らざるものの、されど父たるべく、母たるべきに耻づるものにはあらざるを喜ぶ。

（在墨國　陶子）

世の大なる矛盾

今日の社會では罪を告白してその許しを得よと叫ぶ。然しながら人が罪を告白する時は、之れを以てその罪の許しに用ひずして、一つの大なる鞭を作り死せるが如き罪人の骸を打つ道具に用ゆ。もし人が罪を自覺して心より悔いたる時には、時といふものの力によりて、永き間にその事實を證明する事が出來る。故に小さき世に告白して、その鞭によりて更らに罪を作らんよりも、神の前に告白して、一般に向つては默して居つた方が、幾倍眞の悔悟が出來る

か判らない。もしこの時自分の汚れた心を注ぎ出して許しを乞ふ神といふものを知らぬ時には、自暴自棄に陥るのは無理なき事と思ふ。（幽香）

迷ひし歳月を惜む

自分は年々に物事を人格を通じて見るといふ事に深き意味を見出すやうになつた。自分がさまぐの説に迷ひ迷つて、終に安住の地を求め兼ねた曉に、ふと自分を醒しくれたものは、人格を通して見ると云ふ事であつた。而して敢へて神學の自覺を説かれず、哲理の蘊奥を授けたるにあらず。その人格を以て宗教そのものを説明し給ひしクリストを通したるクリスト教に再び心より膝まづかざるを得なかつた今日の思想界には、新らしきを競ふの餘り、地下室を掘つて見出した樣な説を、物々しく壇上に講じてその靈の饑渇を醫さんとして居る。然しわれ等の靈はいかで醫さるべき。益々瘠せ衰へて、死せざれは幸である。文豪スチイルが一貴婦人を許して「彼の女を見れば直ちに粗放なる作法を抑制すべく、彼の女を愛するは高等教育となる。何となれば愛する者の心に愛せらるゝ人の模倣を生ずるは、凡そ愛の性質なれば、彼の女に對する顧慮は自然にその讚美者に、美はしき禮儀と善良なる行爲を生せしむればなり」と云はれたと同じく今日の靈の饑渇を醫さん爲めには、壇上よりその人の説を聞くに非ずして、壇上にその人を見ん事を欲す。同時に我々も全身を擧げてその主義を説明する人となり度いものである。自分はかやうに人格に憧憬れながら、しかも遙かに遙かに下を歩んで居る自分を見る時、只人の説に遊戯して居つた幾年かを悔ひ、且つその歳月を惜しまざるを得ない。（三四子）

眞に醒めたりや

自覺々々と云ふことが婦人の間にも叫ばれ、新しき女とか、醒めたる女とか云ふ語まで出來ました。言葉は誠に結構ですが、果して醒めたりと云つて居

らつしやる方が、眞に醒め、眞に自覺してゐらつしやるでせうか。本年一月靑踏社の新年會の「泡立つピールに未練をのこし」とか、「强き者よ汝の名は女なり」とか、「女の世界」とか云つた樣な放縱な記事を見て、そう云ふ感じをいたし、又靑踏社の人々と云ふ寫眞をみて、左樣に思つたのでした。

先日の新聞に、某女史が、七人の子供をのこし夫を慕ふて西の都に行かるゝのに「現代日本の婦人美を代表する女學生を裝ひ、お召の振袖に、縮緬の襦袢カシミヤの袴」と云ふお出で立ちとありました。が、我娘の歳にも似つかわしき華美な仕度が、よくも出來たものですね。俳優が舞臺の上での仕草を、大びらに、西比利亞下りやつていらつしやる勇氣は寧ろ賞贊を値するかもしれません。眞に强きものよ汝の名は女なりであります。しかし私共はかゝる誤られたる自覺を悲しまざるを得ません。私共は眞の自覺を尊びます、されど誤れる自覺、神なき覺醒をむしろ呪ひます。（聖）

定價の改正に就て

本誌今回の擴張は誠に僅かなるものではありますが、かねての希望を今月號より實行して皆さまの御覽を願ふことのできるのは私共の非常に嬉しく思ふところであります。

たとへ僅かとは申せ右の結果として讀者諸氏に負擔の幾分かの增大を願はなければならぬこととなりました。實はこのことの計畫された當初はなるべく定價の値上げなどはないやうにと思つては居ましたが、さて實際となれば思ふやうにもならず、やむなく定價を改正して

一冊　十二錢　半年（六冊分）金七十二錢　一年（十二冊分）金一圓四十錢　（郵稅共）

とすることゝなりましたから、既に前金を御拂込みの方もこれから御拂込み下さる方も右の旨を何卒御承知おき下さるやうに御願い申します

事務係

時事其折々

一記者

▲東宮甲府御成

△甲府空前の盛事　東宮殿下には過般山梨縣下に於て施行されたる、近衛師團步兵第一旅團幹部演習御見學かたがた、地方民情御視察のため、三月廿七日午前十時十五分屈從の諸官を從へて、同地方、御成遊ばされた。山峡の國を以て有名な甲斐の國が、東宮殿下を迎へたのは、今回が初めての事であるから同縣下の人民は歡喜措く處を知らぬ有樣で、奉迎の準備に些の遺憾がないやうに勉めたのである。甲府御着のありし夜は、市中到る處に球燈や國旗を揭揚して、彩華燦爛眼を奪ふ許りで、市中は素より此盛觀を拜せんとして縣下諸地方から集まり來る者陸續として踵を接し、前日二十六日に甲府驛に下車した者千五百七十人、二十七日には午前中だけでも二千五百人の多きを算したと云ふ事である。

△烈風中に御野立　廿八日よりは演習の御見學のため北巨摩郡韮崎村や英村大字下平井村等諸處の御野立場に立たせられ、殊に平井村豆生田に於ては烈風砂塵を捲いて面を向け難き程なりしにも拘はらず、三時間に亘りていと御熱心に御見學遊ばされたのには、一同感激措く處を知らなかつたと云ふ事である。

△諸學校御巡覽　又東宮殿下は非常に學事に御熱心で甲府中學や商業學校、師範學校、農林學校、都留中學等を御巡覽に相成、一々仔細に御視察の末甲府の中學では生徒の圖畫習字など學術御獎勵の思召で數點を御手元に差出すやうとの御下命があつた。

△殿下の御仁德　東宮殿下の御快濶に渡らせられ、些事に拘泥し給はぬことはかれかれ漏れ承る處であるが、今回の御成の時にも尙ほ殿下の御仁德を拜す可き事があつた。二十九日午後五時行啓地西八代郡上野村より御歸館遊ばされ、軈て御旅館無橋の袂に御着車あるや雨中の泥濘をも厭はず、御英姿を拜せんとして群集せる人々は、伸び上り御車の幌内を拜するや、殿下は下狀憫然と思召されたるや、直ちに幌を撤せしめられ、左右を御振返りありて擧手の御會釋を賜つた。誠に有難き聖慮と申すべきである。又甲府市に五百圓、山縣大貳祭祀料として十五圓、御巡覽相成たる縣下學校其他知事以下の各員に對しても夫々御下賜金があつた。

▲大西洋上の慘劇

世界最大汽船の一なるタイタニツク（總噸數四萬五千噸航海速力二十一節）は四月十日乘客船員二千三百五十八人を載せてサウザンプトンを出帆し處女航海に上つた處、十四日夜十時二十分ニユーフアウンドランドのグランドバンク沖に於て、大氷山と衝突して、船首を破壞され、衝突後僅かに四時間で全く沈沒して了り、二千三百五十八人中僅かに八百六十八人を救助したのみで、他は悉く水中に葬りさられた。此報を得て救助に急行したカーパシヤ號が、遭難地に到着して救助に着手した

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のは衝突後八時間であつたが、救助された者は多く婦人と子供であつた、之に就て其後タイムス電報は報じて曰く

△震動少し　タイタニック號沈沒の當夜は海面穩かに星辰煌々たりき、タ號は殆ど全部水中にありたる氷山と衝突せしが、震動は割合に小く、乘客も左迄驚かざりき。然れども船底の一大部分は已に破壞せられたりしが如し、機關は直に停止し船首の方より遲緩に沈沒し始めたり。

△男子引下る　依つて乘客は甲板に呼び集められ、皆浮帶を着く、先づ婦人小兒をして端艇に移らしめ其間男子は背後に引下りて起立せり。乘客は千四百名、水夫は九百四十名なりしが、此内七百七十五名は遂にカーパシヤ號に救助せらるゝを得たり。

△規律嚴正　高等海員及び水夫等の規律嚴正なりしは、生殘者等が賞讚措く能はざる所なり。タ號は漸次沈み行き、殆ど垂直となりて、約二千尋の水中に消失したるが、終りに至る迄電燈は消ねざりき。

△沈沒の慘景　同號沈沒するや、慘憺言ふ可からざる光景を呈したり。數百名は氷と水の中に苦み號叫救ひを求むる聲は水に入れる機械の聲囂々たると相混じて聞えたり。海は到る所破壞物に充滿したり。游泳し居たる乘客は端艇に入られんことを求めたるも、端艇は已に人を以て充滿せるを以て、如何ともする能はざりき。又端艇内にて死したるものも多し。

此非業なる最後を遂げたる人々の中には、紐育アスター家のアスター大佐、ジョージワイデナー氏、米國關稅改革論者にして財界に勢力あるイシドアス、トラウス氏、ベンジヤミングゲンハイム氏、英國評論の評論主筆ステツド氏などがある。尙ほ我國鐵道院參事細野氏もタイタニツクに乘込中であつたが、幸に無事なるを得た。以下は細野參事の談話である

天氣好く霧もなかりしが、寒かりしかば襯衣の儘寢衣を着て眠りしに、ゾシンと舳に響く震動に夢覺めしは十時頃なりき。されど何事もなき樣子に又眠らんとせし時船員來りて浮を投げ出し、甲板に上れと云ひ棄てて去りぬ。兎まれ直に寢衣の上に服を着け、毛布を被りて甲板に出でしに、盛んに危急信號の青煙花打揚げられ、其色凄じく天に映じ、慘憺の感に堪へざりき。船は尙靜穩にして甲板一杯に群衆を以て滿たされしも、騷がず急かず、靜なりしには感動したり。二人の船員拳銃を擬して取締り婦人小兒を先に乘せつゝあり。余は右舷最後の端艇に乘らんとせしも。唯一人の邦人が卑怯の振舞ありてはと覺悟を極めしが、右の端艇が少し卸されし時「尙二三人乘れる」と叫びしものあり。聞くより一人の男飛び乘りしに、自分も思はず横飛に飛び込むと同時に、本船は横になりて船首より沈み居たり。五哩程離れしかと思ふ頃、機關破裂の大爆音と共に、渦卷く樣物凄く殆んど譬へん物もなく、悲痛の叫び聲を殘しつゝ跡方もなく沈み去りぬ。

誠に斯の如きは海運史上最大の悲劇であつて各國一同の震駭する處で我國政府も英國政府に向け吊電を送つたが實に近來になき慘事である。

▲總選擧來る

總選擧もいよ〳〵本月十五日を以て擧行さるる事となつたので、所謂候補者の面々、盛に名乘を揚げて我れ劣らじと競爭を始め、今日此頃は新聞も雜誌も人の噂も選擧で持ち切つてゐると云ふ有樣であるが、今日迄に現はれし狀勢を略說して見ると先づ

△政友會　では今回の選擧で絕對多數を維持せんと苦心しつゝあるは事實で、中には二百五十名を網羅する事強ち難しとせずなど

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と、楽觀してゐる黑幕連もあるが、然し幹部連は今更候補者を殖して、積極的方針を採るのは、絕體に不可能であるとし、選擧後無所屬其他を勸誘して、絕體多數を占めやうとの計畵であるらしい。前例の如く候補者の公認は地方の自治に任かせて、先づ支部の公認したるものに對して、支部が之に承認を與へると云ふ事にしてゐる、

△國民黨　は是非共百名に達する當選を得んと企圖して居れど、政友會内閣の下に行はる、總選擧ではあるし、又選擧費の欠乏と云ふ事で、斯る企圖は如何やら六かしいらしい、同黨所屬の現代議士數は八十七名で、從來國民黨の根據地として最も多數の議員を選出してゐたのは、兵庫縣の八、新潟縣の六、岡山縣の六、宮城の四、東京府の五、埼玉の四なであつたか、然し現狀に於て之れ以上を望むのは無理であるとと云ふ評判である、運動大弟で增員するとゝ思はれるのは、福島、巖手、千葉、奈良、福井、岐阜、京都、香川、などで、之れ等から得るのを十名位としても、全體で九十名内外に達したら、好成績と云つてよからうとの事。

△選擧餘談　其他中央派、無所屬など大分ゴタ／＼してゐる、理想選擧の何のと去年あたりから、大分奇麗な聲か聞ゆるが、まだまだ日本の政界は金を離れて選擧が出來る程度には發達してゐない。所謂運動屋の驟慄なる手段は、選擧民をして益々墮落せしむる一方である。又候補者の連中にしても、眞面目を標榜してゐる理想選擧派とした處が、一票三圓位についてゐるさうだ、其他に至つては言語の外で、一回の選擧に如何しても一萬圓以上を要すると云ふ工合である、又可笑しいのは、長野縣選出政友會所屬代議士の上柳喜右衛門君の如きは、縣の適材選出のため立候補を思ひ切れと、有志者から勸告された處、同夫人が「代議士の夫人ならこそ白襟紋付で御所の拜觀が出來たのだから今一度出てくれ」と迫るので承諾しないと云ふ話や、娘が嫁に行く迄今一度選出してくれと賴んで歩いたと云ふ仙臺近所の候補者など、こんな話はこれから先き幾ら起るか知れたものでない。

▲無試驗入學の廢止

二十四日の實業專門學校長會議は午前十時より開會京都高等工藝學校の提出に係る「中學校優等卒業者の專門學校入學に關し無試驗先入權を與ふるの規程はこれを廢止すべし」との建議案につき協議しその結果全會一致を以て同規程は之れを廢止することに決し、其旨文部大臣に提出することゝなれり。その理由とするところは同規程實施以來の成績によれば中學校は兎角優等卒業生を出すを以てその校の誇りとなし爲めに本來の目的たる普通教育の趣旨を沒却して往々專門學校の準備校たるの奇觀を呈し三年乃至四年頃より主力を試驗科目に傾注するの狀況なりこれ百害ありて一利なきのみならず既往の實驗によるも中學の優等卒業生は必ずしも專門學校に入りて成績良好なりと云ふ能はず故に眞の優秀者を求めんと欲せば現在の制度に於ては先づ試驗によりてこれを判定するの外なし。之本案を提出する所以なりと云ふにあり。而して高等學校長會議にてはこは依然在來のまゝにて繼續さるゝ事となれり。而して此の相異れる二種の決議現れたるに對し松浦專門學務局長は語つて曰く同一問題に對し同時に相背馳する二種の決議を見たるは甚だ遺憾にして、事實として現はれたる以上何等かの決定を爲さゞ可らざるも、本問題に就ては未だ省議に上らざるのみならず、予は尙ほ建議の理由さへ見ざるを以て茲に之を明言するの自由を有せざるなり。併し予一個の私見を以てすれば例令先入學を許可したりと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

する も實業教育上何等の惡影響あるべしとも思はれず。何となれば中學校は健全なる普通教育を授くる所にして實業上の素地を造るものにあらざれば也。故に若し特權附與の結果何等かの弊害ありとせばそは寧ろ中等教育に屬する部分にあらずやと思はるゝを以て不日開かるべき中學校長會議に諮問するも、是亦本問題解決の一方法なるべし。去りがら果して實業學校長會議に動かす可らざる理由ありとせば、或は實業學校に對する特權のみを廢止せらるゝに至るべきか。斯くては不統一に陷るの虞あるを以て一ヶ年を延期し之を廢止するに至るべきか。審議を經たる後にあらざれば明言する能はず云々、と語られたり。

▲通俗教育調査委員會の讀物認定

文部省通俗教育調査會にては、最頃活動寫眞ヒルム、幻燈映畫及び讀物の認定をなせり。其中認定書の著者及び書名は左の如し。

▲井上哲次郎　教育と修養
▲育成會　新撰理科百話
▲荘司力松　通俗農家副業全書
▲大隈家編輯局　國民教育東京講演
▲馬淵冷佑　内外教訓物語
▲服部躬治　新樣青年書翰文
▲宮川すみ　三ぼう主義
▲成田鋼太郎　殉難艇長佐久間大尉
▲巖谷小波　少年世界物語
▲日下部四郎太　北極探檢談
▲水野和一譯　健康の生涯
▲高須芳次郎　金言對照百選スケッチ
▲遠藤隆吉　哲學入門
▲心理學通俗講話會　心理學通俗講話
▲大村仁太郎　太郎は如何に教育すべきか
▲同　乙女の生涯
▲沼田笠峰　少年少女物語
▲和田豊　常識作法一斑
▲下田次郎　現代兒童教訓實話
▲岡田長次郎　井上通女
▲新渡戸稻造　武士道
▲井口丑二　二宮翁傳
▲替川紅雨　少年備正
▲本田增次郎　黒馬物語
▲日高善一　フランダースの犬
▲井口丑二　近世發明談
▲山縣文雄　リンコルン一代記
▲廣瀬勘次郎　コロンバス
▲通俗教育研究會　逸話文庫(詞人の卷)
▲同　同(學者の卷)
▲同　同(婦女の卷)、(志士の卷)
▲井上哲次郎　日本學生寶鑑
▲武島又次郎　文章入門
▲大町桂月　新體詩論、新體文範
▲同　作文資料(文と語)
▲高千穗中學校　世界訓話
▲高島平三郎　母のため
▲亘理章三郎　青年鑑
▲井上頼圀　教育勅語模範講話
▲清水弘道　名士の釋尊觀
▲白河次郎　諸葛孔明
▲小林愛雄　支那印象記
▲遠藤隆吉　男女青年心理及び教育
▲吾恥庵主人　我愛する偉人
▲山松鶴吉　家庭の教育
▲山上治三郎　餓跡夜話
▲山路愛山　[illegible]齋獨語
▲內務省地方局　地方改良要項
▲成功雜誌社　新論語
▲小笠原秀實　佛教讀本
▲通俗教育研究會　通俗教育國民講演百種
▲同　通俗教育講演資料
▲巖谷小波　日本お伽噺
▲寶文館　入營準備最新教本
▲內藤慶助　教育勅語教授資料範例大鑑

編輯だより

△一と月前に枯木のやうであつた庭の楓に、赤き芽をふくみ、卷き出すやうにその芽は日に〳〵延びて、きのふけふ、もはや幼兒の掌程の若緑の葉が茂つて居ります、朝夕これを見まもる私の心は、どんなに壓迫を感じた事でありましたらう。「新女界の原稿」「新女界の編輯」と、目に立つて延びるその葉は丁度私に厳しい催促をする樣に覺えたました。

△主幹主筆を始め、同人諸氏は何れも繁忙を極めらるゝ内にも、本誌の爲め親切に執筆、斡旋せらるゝのに勢を得て、出來得る丈けの努力致して足らぬ所は追々に改めて參る。と決心致したものゝなほ女子青年會に週の四日は出勤致さねばならず、本誌の勝手も解らぬ處より、誠に、却つて自分の手によつて害ひせぬかと恐縮に存じます。

△去十三日本郷教會の婦人會がありました際に、海老名夫人は、一つの傳道として本誌を紹介したしとの事に、丁度傍にありし元良夫人に「あなたが主客の間に立つて御紹介下さるに一番よい方です」と依頼せられたので、夫人は起つてこう申されました。

△「今から三年前私共婦人會に一人の娘が生れました。その娘は新女界と申して安井先生を始め、皆樣の深き心づくしで幸に世の中の虚榮に染みず、質實に今日迄育つて參りました。どうか皆樣も共にこの娘をお愛し下され、今後も健やかに、彌々立派に育ちますやうお力添へを願ひます」と。私はこの言葉を聞いて一層責任重きを感じました次第です。そして茲に改めて讀者諸氏にも同じ言葉を呈する事をお許し下されば、誠に幸に存じます。（三四子）

定價（郵税加算）

	内地及朝鮮支那	外國
一部	金拾貳錢	金拾六錢
六部（半年分）	前金七拾貳錢	前金九十貳錢
十二部（一年分）	前金壹圓四十錢	前金貳圓

廣告料

一行（廿三字詰）	金廿五錢
一頁	金拾圓
四半頁	金三圓
内表紙	金拾貳圓
半頁	金五圓
外表紙	金拾八圓

猶ほ引續き御廣告の向へは特別大割引可仕候

摘要

▲本誌代金は總て前金にて御拂込み被下度候
▲郵券代用は一割増の計算にて御送附被下度候
▲御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候但手數料金壹錢御加へ被下度候
▲通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず發行所宛に願上候

明治四十五年四月二十五日印刷
明治四十五年五月一日發行

編輯人兼發行人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區丸山町四番地　相原一郎介
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所
發行所　東京市小石川區林町四十三番地　新人社
電話番町二五四四
振替貯金口座一四〇〇五

新人第拾參卷第五號目次

（四月一日發行）

●社說

本多庸一論　主筆

●教壇

神國の發展　海老名彈正

●想苑

死の一線を超えたる生の宗教　小山鼎浦

予が見たる禪觀(二)　金子白夢

婦人參政權に對する輿論　原口竹次郎

予が英雄崇拜　帆足理一郎

●文苑

旅碁　黒瀬二水

神の力　高田畊安

●雜爼

本多庸一先生傳

△本多庸一先生小傳　岡田哲藏

△本多監督の幼時　本多齋

△横濱時代の本多監督　熊野雄七

△東奥義塾と本多監督　山鹿旗之進

△青山學院と本多監督　小方仙之助

△海外教育會と本多監督　押川方義

△三派合同と本多監督　平岩愃保

△家庭に於ける本多監督　本多夫人

カナンを見たる本多監督　内村鑑三

ニコライ大主教の生涯　石川喜三郎

ピーボンヌ大司教小傳　聖山生

●聖書講義

馬可傳　海老名彈正

●評論

現今の哲學界　藤田快堂

●講演

基督論(第一回)　海老名彈正

●時評

基督教の教育問題

勝利の意識に歸れ

タイタニック號の沈沒

●彙報

本多監督追悼會　記者

●口繪

本多監督の最近肖像

ニコライ大主教肖像

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第三巻 新女界 合本

殘本僅十數部　定價金壹圓（送料共）

●社説　（安井哲子）

▲死ぬ迄働き續ける元氣▲無意識の感化▲個人の歴史▲奮闘と慰安▲他人の喜びに對する同情▲趣味のいろ〳〵▲過つて改むるに憚る事勿れ▲懐かしい十年前の夏▲温情▲勇氣▲犠牲の精神▲心の準備

●講壇　（海老名彈正）

▲現代婦人の缺陥▲永遠の生命▲恩惠の聲▲柔和の福音▲誤解せられたる基督▲女子の解放▲愛苦の眞義▲神の聖愛▲向上の動機▲基督の家庭▲基督教の眞髓

●想苑

▲新らしき生活　谷津博士
▲現代女學生の惡傾向　小此木松子
▲禮義の根本觀念　三谷民子
▲亞米利加だより　海老名一雄
▲かあやん　德富健次郎
▲現代小説雜誌　小山東助
▲湯峯叢話　谷澤直秀
▲獨逸見聞記　吉野作造
▲婦人解放の是非　宮田脩
▲佐久間大尉の手紙　德富健次郎

▲婦風問題　島田三郎
▲女子の教育の標準　村田勤
▲婦人の活氣　小此木松子
▲伊香保より　野口精子
▲形式道德の無能力　村田勤
▲土耳古の話　小松武治
▲惠み多かりし二夏　三谷民子
▲夏の巴里　藤島武二
▲西班牙の夏　湯淺一郎
▲常樂の生活　二宮良子
▲子女教育に對するの母の務　海老名みや子
▲婦人と信仰　海老名彈正
▲「アンドリヤ、デルサト」を讀みて　三谷民子
▲無題録　ウヲルダン博士　小此木まつ子
▲女子の高等教育論　成瀬仁藏
▲我國女子の將來　内ケ崎作三郎
▲婦人解放問題　安部清藏
▲男女問題の意義　谷澤直秀
▲浄心録　富川經輝
▲世界最大の美
▲文欄▲家庭▲雜俎▲衛生▲隨感▲其他種々

入院診斷後應需

松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

（電本）八八八（病院用）
八九八（私宅用）

東京神田區駿河臺鈴木町二御茶水橋南

東洋內科醫院

院長　醫學士　高田畊安

相州高座郡茅ケ崎町海濱從停車場半里

南湖院

電話ちがさき二番

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤

但　院長渡歐中　副長代理す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第四巻第五號

明治四十五年五月一日發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

改正定價金拾貳錢

東京市小石川區林町四拾参番地 新人社 振替口座東京一四〇〇五